

令和元年度

事業報告書



社会福祉法人 東近江市社会福祉協議会

目次

序文	-1-
事業内容	
目標① “お互いさん” の地域づくり ～やさしく ひろがる そっと見守り～	-2-
目標② 気兼ねなく「助けて」と言えるしくみづくり ～「ようきいて」「よう言うて」「おおきにな」～	-11-
目標③ 一人ひとりの良さに気づくことから始める人づくり ～高めあい 育ちあい 和気あいあい～ ...	-33-
目標④ みんなが輝く場や機会づくり ～『得意』『好き』を持ち寄って 東近江 115,000 笑ット～ ...	-36-
目標⑤ 東近江の魅力を再発見と誇りづくり ～やっぱりええやん 東近江～	-44-
目標⑥ 地域活動を支えるためのサポート ～とことん14地区にこだわり、地域づくりをすすめます！～ ...	-46-
基盤強化計画	-54-

令和元年度 東近江市社会福祉協議会事業報告

つながりと地域愛でつくる ①ふだんの ②くらしの ③しあわせ

少子・高齢化による人口減少社会の到来、家族形態、生活様式の変化等により、市民の社会福祉への関心がますます高まる中、東近江市社会福祉協議会は、住民にとって最も身近で信頼される組織となり、誰もが安心して暮らせる地域福祉の推進に取り組むことを基本方針として、「第2次地域住民福祉活動計画」に掲げる6つの目標達成のため各事業の展開を図ってまいりました。

本年度は、複雑多様化し、増大する相談に対応すべく相談支援体制を強化し、また地域住民に身近な拠点で、住民が住民の困りごとを聞き、解決へ向けてコーディネートを行う「地区ボランティアセンター」の設置や、地域課題や必要な取り組み・しくみについて協議する「第2層協議体」の設置を各地区で進めてまいりました。

また、本会における厳しい財政状況の改善のため、これまで大きな財政改革を断行してまいりましたが、いまだ改善の効果が表れていない状況であります。

このため本年度は、介護事業のあり方や、会費・共同募金の納入などに関し新たに設置した検討委員会において、関係機関の皆様方からもご意見も頂きながら本格的な議論をお願いしてまいりました。その結果を踏まえ具体的な計画を示し着実に改革を進めてまいる所存です。

さらに、この厳しい状況を本会全体の課題ととらえ、管理職はもちろん組織内中堅職員で構成するプロジェクトチームを組織し、組織横断的な検討、全ての職員が自分の課題として考える、文字通りワンチームとなってこの状況の改善に取り組む組織づくりを進めてまいりました。

今後も健全経営を目指し職員一丸となって取り組み、市民の皆様とともに、本市に住む全ての人々のが、“共に見守り、支え合い、豊かに暮らせるまち”が実現できますよう、市民の皆様にしっかり寄り添い安心して生き生きと暮らせる社会づくりに努めてまいります。

【事業内容】

目標① “お互いさん”の地域づくり

～やさしく ひろがる そっと見守り～

1. 地域力強化推進事業(共助の基盤づくり事業)＜地域福祉課＞

年齢や性別、置かれている環境などに関わらず、誰もが安心してくらすよう、地域住民による支え合いの取り組みを活性化し、地域全体で支え合う地域の基盤づくりを進めました。また、各地区において、誰もが役割を持ち、孤立しない「地域共生社会」の実現に向け、住民同士が話し合う場の開催（見守り会議、生活支援サポーター懇談会、交流会など）や地区ボランティアセンター設置への働きかけを行いました。市全体では、住民が地域福祉活動への関心を高め、地域課題を把握し、具体的な行動を起こすきっかけとなる講座や研修会を開催しました。（生活支援サポーター交流会、ボランティア推進を考える会など）

＜成果＞

これまで、地区担当ワーカーの継続的な働きかけにより、地域の中で話し合う場が生まれ、住民主体の地域活動が生まれてきています。

誰にも役割があり、孤立しない「地域共生のまちづくり」

身近な地域(地区・小地域)

つながりづくり

- ・居場所づくりの支援
- ・サロンの支援・拡大

人づくり

- ・生活支援サポーター養成講座
- ・福祉共育

地域活動を支えるためのサポート

- ・地区社協 情報交換会
- ◆地区社協基盤強化プロジェクト
- ・民児協との連携

話し合う場づくり⇄ネットワークの構築

- ・地区住民福祉活動計画推進会議
- ◆生活支援サポーター交流会
- ・見守り会議

受け止めるしくみづくり⇄ネットワークの構築

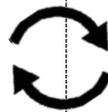
- ・第2層協議体の設置
- ◆地区ボランティアセンターの設置
- ・見守り活動の支援



地区担当ワーカーの配置:地域の特性に応じた地域づくりを住民とともに進める

つながりをつくる: 地域支援

- ・地域活動の運営支援
- ・新たな活動の立ち上げ支援
- ・住民や専門職のネットワーク構築
- ・課題を抱えた方を地域で支える仕組みづくり



くらしをまもる: 個別支援

- ・住民からの相談を受け止める
- ・専門職、専門機関につなぐ
- ・既存のサービスの紹介
- ・地域の取り組みにつなぐ



市域

市域の課題を計画へ反映、計画の推進

- ◆東近江市福祉のまちづくり会議

誰もが輝く機会や場づくり

- ・障がい児サマーホリデー事業
- ・子どもの学習支援事業
- ・シニア世代の仲間づくり講座

話し合う場づくり⇄ネットワークの構築

- ・第1層協議体
- ◆ボランティア推進を考える会

注: ◆…委託事業で実施

2. 見守り活動の推進、支援<総務課・地域福祉課>

住民同士が互いに気にかけて合う地域づくりを目指し、さまざまな見守り活動を推進しました。ひとり暮らしの高齢者など見守りが必要な方への安否確認、困っていることを相談できるきっかけづくりにつながりました。

- ・安否確認などの訪問活動（見守り支援事業、友愛訪問、一人暮らし高齢者安否確認訪問など）の支援を行いました。
- ・給食サービス、友愛訪問・ひとり暮らし高齢者安否訪問

対象者	924名
実施回数	133回
延べ人数	10,942名

3. 見守り会議の開催・参加<総務課・地域福祉課・在宅福祉課>

支援が必要な人が地域で安心して暮らしていけるよう、自治会など顔の見える単位で、困りごとを抱えた人のことや地域で気になることを話し合う機会づくりを行いました。

住民が自分たちの暮らす地域の状況や支援が必要な人のことを知り、地域ができることを考え、できないことは医療や福祉の専門職などへ相談し、共に支える意識を高めることができました。

地区名	活動名	ワーカーの関り・内容
市辺	認知症の人への見守り、声かけ訓練、勉強会	事業・運営相談対応、参加協力
御園	神田町見守り会議	事業・運営相談対応
	野村町つながり会議	事業・運営相談対応
五個荘	認知症行方不明者早期発見・保護訓練 ごかしょう安心サポート委員会	事業・運営相談対応、当日参加協力
	五個荘川並支え合い会議	事業・運営相談対応
	五個荘山本福祉委員会	事業・運営相談対応、
	五個荘竜田町「支え合いマップ」作成 会議	事業・運営相談対応、支え合いマップ説明
能登川	桜ヶ丘福祉の会	事業・運営相談対応、当日参加協力
蒲生	桜川西投げ所おぶさ見守り会議	事業・運営相談対応
	大塚町見守り会議	事業・運営相談対応、支え合いマップ説明

4. 『ひがしおうみし地域福祉フォーラム』の開催<地域福祉課>

東近江市で暮らす誰もが支え支えられ、生きがいを持って心豊かに暮らせる地域、気になる人や暮らしの困りごとに気づいた人が「ほっとけへん！」と一歩踏み出せる“おせっかい”な地域づくりを進めるきっかけとなるよう開催しました。

◎ひがしおうみし地域福祉フォーラム

日 時：令和元年10月19日（土）

場 所：東近江市蒲生コミュニティセンター

参加者：255名

<プログラム>

○『集いいね👍』の紹介

『集いいね👍』パネルの展示・集いいねカードによるコメント募集

○つながりマルシェ

○鼎談『暮らしの中の何気ないことが地域の宝物に～“できる”“楽しい”でつくる地域共生のまち～』

(登壇者)

- ・日本福祉大学 福祉政策評価センター 研究員 奥田 祐子 氏
- ・全国コミュニティライフサポートセンター（CLC）出版・開発グループ 地域支え合い推進プロジェクト 開発主査 木村 利浩 氏
- ・東近江市社会福祉協議会 地域福祉課 主事 谷 和之

○『集いいね👍』インタビュー・感謝状贈呈・フラッグ贈呈



<成果>

- ・いっそう元気！東近江や、ボランティア推進を考える会、子ども食堂、シニアグループ、生協と協力してマルシェを行ったことで、それぞれの活動を参加者に知ってもらう機会となりました。
- ・集いの場の良さや意味、その魅力を発信することができました。
- ・集いいねの感謝状贈呈を受けて、「自分たちのやっている活動に自信が持てた」との声があるなど、活動者のモチベーションが上がるきっかけとなりました。
- ・「集いいね」の取り組みなどを通して、新たな層の人にフォーラムへ参加してもらうことができ、東近江市で進める地域福祉活動に触れてもらう機会になりました。
- ・参加者アンケートで「地域に帰ったら声かけをしようと思う」、「行政などのサービス待ちではなく、自分たち（地域、隣組み）でおせっかいをしていけば元気な地域になる気がした」などのコメントが寄せられた。おせっかいのできるまち東近江の魅力や大切さを伝え、地域の中でその機運を高めるきっかけになりました。

5. 生活支援サポーターの養成と住民による生活支援活動の支援

<地域福祉課>

生活する中での困りごとに気づき、支援する人づくりを目的に講座を開催しました。また、既に活動されているグループへの活動支援や、活動の立上げ支援を行いました。

◎生活支援サポーター養成講座の開催

人々の暮らしの困りごとを地域で解決していくために、身近な人を気遣う「お世話焼きさん」や、「気づきのアンテナ」をもつ人を増やしていくための講座を実施しました。

【令和元年11月～令和元年12月（各会場全4回講座）】

- ・ 2会場 延8回 参加者延 107名
- 玉緒会場 4回 参加者 16名（全 40名）
- 南部会場 4回 参加者 20名（全 67名）



◎生活支援サポーターの活動支援

（専門職や関係機関等とのつなぎや調整、サポーター懇談会への参加など）

地 区	グループ名	定例会等	ワーカーの関り・内容
御園	ちょこっとサポートみその	毎月 1回	事業・運営・視察受入れ相談対応 関係機関等調整、会議サポート
中野	たすけあい中野		事業・運営・視察受入れ相談対応 関係機関等調整、会議サポート
永源寺	生活支援サポーター 絆		事業・運営・視察受入れ相談対応 関係機関等調整、会議サポート 助成金相談対応
五個荘	ほっとハート五個荘	2ヶ月に 1回	事業・運営・視察受入れ相談対応 関係機関等調整、会議サポート
湖東	生活支援ボランティア 湖東おたすけ隊	毎月 1回	事業・運営・視察受入れ相談対応 関係機関等調整、会議サポート
能登川	ちょこっとサポートのとがわ		事業・運営・視察受入れ相談対応 関係機関等調整、会議サポート
蒲生	生活支援サポーター コスモスの会	2ヶ月に 1回	事業・運営相談対応、関係機関等調整 会議サポート
	おしゃべりコーディネーターがもう	随時	事業相談対応
	長峰東ほほえみ会		
	長峰北サポート隊		
WE love 石塔グループ			

◎生活支援サポーター同士の情報交換の場づくり

（生活支援サポーター養成講座受講者の懇談会への支援）

受講をきっかけに、自分たちの暮らす地域でできることなどを考える場をつくり、支え合いや見守り活動につながるよう働きかけました。

地 区	開催状況	懇談の様子・地区での動きなど
平 田	隔月	講座終了後、平田地区に必要な支え合いのしくみについて話し合いを重ね、グループ立ち上げに向けて検討を進めた。活動の手引き等が完成し、地区全体で活動を盛り上げていくために、広報「ひらたから」1月号～3月号に情報を掲載したり、サポーター団体名の公募も行った。3/31の説明会は中止になり、プレ活動も一旦見送りになった。
玉 緒	不定期	困りごとが自然と出てくるためには、困りごとを言いやすい環境や居場所が必要。玉緒に住む人にとっては、自治会が身近な拠点となるため、自治会内で居場所を増やしていくことはできないか…という方向性で話がまとまる。サポーターのメンバーが地区計画のメンバーの顔ぶれと重なるため、今後、話し合いの場の整理を行っていく。
八日市	2ヶ月に1回	講座終了後の話し合いの中で、「自分たちにもできることを考えたい」「助けてと言える先と気軽に支え合えるしくみが必要」との声が出ており、八日市地区に必要な支え合いのしくみづくりについて検討した。具体的にサポーターグループの立ち上げに向けての話し合いを重ねる。
南 部	毎月1回	講座終了後、受講者が集まり、講座での気づきがその後の暮らしの中で感じたことを話し合う。支え合い活動を進めていきたいとの思いがある一方、地区域での活動がイメージできないことから、各自治会の状況を話し合っている。
蒲 生	毎月1回	蒲生地区に必要な支え合いのしくみについて話し合いを重ね、生活支援サポーター人財バンク「おたがいさん蒲生」の立ち上げに向けて検討を重ね、令和2年4月より、活動をスタートされることになった。

<成果>

- ・生活支援サポーター養成講座においては、講座受講生に支え合いの必要性を知ってもらい、「自分のできること」「自分の地域の支え合いについて考えていきたい」との思いを高めるきっかけになりました。
- ・生活支援サポーター養成講座をきっかけに、受講生が自分たちの地域に合った支え合いのカたちについて考えていけるよう働きかけ、来年度から新たに3地区（平田・八日市・蒲生）で活動を始められることになりました。
- ・生活支援サポーターの活動支援や交流会の開催を通して、サポーターだけで対応が難しいケースは、医療や福祉の専門職へ相談するという流れができ、住民主体の活動を支えるしくみとして根付いてきました。

6. 地域での集いの場・居場所づくりの支援<総務課・地域福祉課・在宅福祉課>

◎集いの場・居場所づくりについての支援

集いの場の立ち上げや運営に関わる方々の相談や、地域の集いの場、居場所づくりの支援を行うとともに、地域サロンへの助成を行いました。また、サロン運営スタッフが情報交換する場を設け、サロンが参加者・担い手の区別なくいつまでも参加できる場となるよう支援しました。

- ・サロン活動への支援 379回（平成30年度 307回）
（相談対応・活動調整）
- ・自治会活動への支援 128回（平成30年度 175回）
（相談対応・活動調整）
- ・集いの場・居場所づくりへの支援 152回（平成30年度 118回）

○サロン活動への支援

地区	件数
平田	3
市辺	1
玉緒	0
御園	1
建部	4
中野	0
八日市	8
南部	4
永源寺	0
五個荘	4 1
愛東	0
湖東	2 9
能登川	2 1 6
蒲生	7 2
合計	3 7 9

○自治会活動への支援

地区	件数
平田	1
市辺	2
玉緒	0
御園	1
建部	2
中野	3
八日市	2
南部	2
永源寺	1
五個荘	1 5
愛東	6
湖東	1 2
能登川	6 6
蒲生	2 1
合計	1 3 4

○集いの場・
居場所づくりへの支援

地区	件数
平田	8
市辺	3
玉緒	0
御園	0
建部	0
中野	2
八日市	0
南部	0
永源寺	6
五個荘	2 8
愛東	3
湖東	2
能登川	6 3
蒲生	4 0
合計	1 5 5

○サロン活動支援助成

サロン活動支援助成	箇所数	回数	助成額
平成30年度	226ヶ所	2,494回	8,455,042円
令和元年度	226ヶ所	2,416回	8,257,560円

【評価と課題】

サロン活動を続けていくためには、実施者にとって負担の少ない形式に変えていく必要があります。実施者にとって負担の少ないサロン運営方法の紹介や、助成金に頼らず実施できるサロンとなるよう、運営についての支援が必要です。

また新型コロナウイルス等による緊急の対策等、柔軟な対応が必要となるため今後の課題として、市とも協議を行います。

○子どもの居場所づくり支援

地区	活動名	ワーカーの関わり・内容
玉緒	あじと	運営相談・支援、助成金案内、寄付物品調整
中野	なかのごはん	立上げ支援、運営相談、市内子ども食堂情報提供
八日市	おてんとさん 「おかえり食堂」	運営相談・支援、寄付物品調整、視察対応
南部	子どもカフェ あおぞら	寄付物品調整
五個荘	てんびんの里 みなみ	市内子ども食堂情報提供、寄付物品調整
湖東	あじさい食堂	寄付物品調整
能登川	おかげSUNのとが和 「かふえ和（わっか）」	運営相談・支援、寄付物品調整
蒲生	かたりべ食堂	寄付物品調整

<成果・課題>

- ・子ども食堂への指定寄付が増えたことや、視察・卒業論文のテーマに取り上げられるなど、地域の居場所の一つとして理解する人が増え、応援する人が増えています。また、そういった子どもを真ん中にしながらも、地域の誰もが集まれる場の必要性を感じている人が多く、開催されていない地区でも子ども食堂の必要性や立上げの検討がされており、子どもの居場所を地域で作っていく機運が高まってきています。
- ・子どもや大人、障がいがあるなど関係なくごちゃまぜの居場所である良さと、ごちゃまぜの居場所だからこそ、課題を抱える子どもやその家庭にとって地域での居場所の一つになっていることを、地域の人に周知し理解者と応援者を増やし、参加する子どもや大人を増やしていくことが必要であることが分かりました。
- ・助成金の案内や寄付物品受渡しを行い、市内の子ども食堂の運営を支援がしました。また、寄付物品を、気になる世帯へ訪問するきっかけやお母さんにつながるキッカケにするなど、寄付物品を通じて、子ども食堂と参加者をつなぐきっかけづくりができました。
- ・市内子ども食堂の周知チラシの作成や、見守りフォーラムでのブースを設けた事で、広く市民に子ども食堂の事を知ってもらうことができました。

7. 福祉委員(福祉推進委員)との連携<地域福祉課>

小地域福祉活動を進めるために、見守りや支え合い活動の担い手として自治会に設置されている福祉委員による見守りやサロンなどの活動を支援しました。福祉委員同士の情報交換や研修の機会づくり、小地域における活動支援を通して、支援が必要な人を地域で支える「見守り会議」や「生活支援活動」などの取り組みにつながりました。

地区名	活動名	ワーカーの関り・内容
市辺	福祉協力員会議	事業相談対応、サロン助成の説明
玉緒	玉緒地区福祉委員会	運営相談対応、情報提供
五個荘	福祉委員研修会	開催に向けた相談対応、情報提供、研修会出席
愛東	北坂町福祉委員会	事業・運営相談対応、地域のお宝さがしワークショップ
能登川	桜ヶ丘福祉の会	運営等相談対応、情報提供
	桜ヶ丘福祉の会 伊庭町ちよボラ委員との交流会	交流会の調整
蒲生	福祉のまちづくり講座	見守り・支え合いの必要性を考える働きかけ

8. 善意による「寄付」や「募金」の有効活用

(善意銀行、赤い羽根共同募金、歳末たすけあい募金)〈総務課〉

◎善意銀行

寄付物品などを必要とされている方にお渡し、特に生活困窮者支援としての役割を担っています。ただ、需要と供給のバランスや払い出し先が限られてきていることから、寄付者と受領者のマッチングについて、今後、幅広い配分方法と広報について検討していきます。

〈預託〉

○金銭預託

	平成 30 年度		令和元年度	
一般寄付金	56 件	1,278,899 円	72 件	3,215,966 円
指定寄付金	60 件	3,028,254 円	35 件	1,350,152 円
自販機設置手数料収入	12 ヶ月	75,486 円	12 ヶ月	55,217 円

○物品預託 お米、食料品、衣類、タオル、リハビリパンツ、野菜等



パナソニックホームズ(株)
お米の寄付



五峰興風会 寄附

○リサイクル預託	使用済み切手	90 件	使用済みテレカ	2 件
	アルミ缶	19 件	牛乳パック	9 件
	書き損じハガキ	9 件	ペットボトルキャップ	120 件
	ベルマーク	18 件	プルトップ	26 件

〈預託金品等の効果的な払い出し〉

○金銭払出	・地区社協事業助成	12 件	476,100 円
	・指定助成金支出	2 件	150,000 円
	・災害見舞金事業	4 件(火災)	40,000 円
○物品払出	・主な払出先	生活困窮世帯、学童保育所、介護事業所 介護サービス利用者、こども食堂、作業所	
	・緊急用食料品給付事業	47 世帯	69 袋

◎共同募金助成事業審査委員会

共同募金が適切に助成事業に活用できるよう、審査委員による助成事業内容の審査を実施。また、助成を受けた団体からのメッセージをホームページや広報を通して寄付者に発信しました。

	期日	審査・内容	助成結果
第1回 審査会	令和元年 7月26日	地区社協地域交流事業助成(赤い羽根 共同募金)	9地区 13事業 432,500円
		福祉団体赤い羽根地域活動支援事業 (赤い羽根共同募金)	27団体 732,600円
		ボランティアグループ育成・支援事業 (赤い羽根共同募金)	35団体 628,400円
		見守り活動スタートアップ助成(テー マ型募金)	5団体 250,000円
第2回 審査会	令和元年 11月22日	地区社協地域歳末たすけあい事業(歳 末募金)	9地区 10事業 270,200円
		福祉団体歳末たすけあい地域活動支 援事業(歳末募金)	13団体 330,500円
		歳末たすけあい激励金(歳末募金)	130世帯 1,145,000円

9. 飛び出し人形設置の支援(赤い羽根共同募金) <総務課>

交通事故から子どもの命を守るための注意喚起として、飛び出し人形の設置を支援しました。



平成30年度		令和元年度	
64自治会	64体	83自治会	83体

【評価と課題】

令和元年度は平成30年度に寄せられた「子どもを事故から守る募金」を主な財源として飛び出し人形を製作・配付し、市内の交通安全啓発を行いました。

今後も事業を継続し、市内の交通安全啓発に取り組むとともに、飛び出し人形の配布を通し共同募金の啓発に取り組みます。

また令和元年度はNHKのテレビ番組『シブ5時』より取材を受け、本取り組みについて番組内で紹介されたことで、より広く情報を発信できました。

10. 子どもの遊び場遊具への助成(赤い羽根共同募金) <総務課>

子どもたちが安心して安全に遊べるよう遊具の新設・補修に助成を行いました。

	平成30年度		令和元年度	
新設	3件	423,000円	2件	292,000円
補修	6件	262,800円	10件	380,000円



【評価と課題】

子どもの遊び場遊具を補修・新設することで、子どもたちが楽しく安心安全に遊ぶ場づくりに有効に活用できました。共同募金活動の周知のため、より各自治会への情報発信を様々な媒体を活用して行っていきます。

11. Food Day25 による‘食’の支援<総務課・相談支援課>

生活に困っておられる方が、食の心配をせず、安心して新年を迎えられるようにとの思いで、年末に食糧等をお届けする「食」の支援を行いました。市民の皆さまからの善意によるご寄付を、民生委員・児童委員をはじめ市や事業所の協力により、食糧を必要とする多くの方にお渡しすることができました。当日はS&Sメンバーによる豚汁やカレーの提供をはじめ、炊き込みごはんのおにぎりのご寄付や、ボランティアによる餅つきもあり、来場者にほっとしたひと時を過ごしていただきました。感謝の言葉やもっといい事業となるようにとご意見もいただきました。皆様の声を聴きながら、社協の困窮者支援活動の一つとして次につなげていきたいと考えます。

◎Food Day25 の開催

日 時：令和元年12月25日(水)

場 所：東近江市福祉センターハートピア

・ 寄付件数

食料品	59 件
日用品	11 件

・ 配付件数

平田	3 件	永源寺	3 件
市辺	11 件	五個荘	8 件
玉緒	1 件	愛東	3 件
御園	9 件	湖東	5 件
建部	2 件	能登川	13 件
中野	14 件	蒲生	2 件
八日市	11 件	不明	0 件
南部	14 件		
		合計	99 件

・ 参加者が Food Day25 を知ったきっかけ

社 協	27 人
民生委員	39 人
市役所	18 人
その他	10 人

目標② 気兼ねなく「助けて」と言えるしくみづくり ～「ようきいて」「よう言うて」「おおきにな」～

1. 「地区ボランティアセンター」の設置と活動支援<地域福祉課>

身近な地域で、住民が住民の困りごとを聞き、解決に向けて必要な資源（人や活動など）をつなげる仕組みとして、地区ボランティアセンターの設置をすすめました。各地区における、地区ボランティアセンター設置の後押しとなるよう勉強会を開催しました。また、今ある話し合いの場や活動の場で、「地区ボランティアセンター」の機能を付加させていけないか、各地区において働きかけました。

日時	内容	参加者数
令和2年2月4日 (火) 13:30～15:30	地区ボランティアセンター勉強会 ○話題提供 「東近江市ですすめている福祉のまちづくりについて」 東近江市社会福祉協議会 ○中野地区ボランティアセンター事例発表 中野地区ボランティアセンター ○講義「地区ボランティアセンターの必要性とその魅力」 講師 京都光華女子大学 准教授 南多恵子 氏 ○グループ懇談 「どんな地区ボランティアセンターにしたいか」	66 名

地区	どのような場に	働きかけ
平田	<ul style="list-style-type: none"> 平田ふくしのまちプラン推進委員会 平田地区生活支援サポーター準備委員会 	平田ふくしのまちプランが進めてきた「カフェゆきのやまとふれあい広場」が平田地区の地区ボランティアセンターである事をプランメンバーで確認し、性格支援サポーターとも連動させながら、カフェがより地区ボランティアセンターの機能を持つことができるよう話し合いを重ねた。
市辺	<ul style="list-style-type: none"> 地区住民福祉活動計画推進会議 「よってみてカフェ こぼし」 	地域の人が身近に集える場所で、自然と困りごとが話せ、その人らしく活躍できる場づくりを検討。
玉緒	<ul style="list-style-type: none"> 玉緒地区社協 地区住民福祉活動計画推進会議 生活支援サポーター受講者 	生活支援サポーター講座の中で、地区ボランティアセンターの話聞いてもらい、玉緒地区でのボランティアセンターのイメージや必要性について話し合えるきっかけをつくった。
御園	<ul style="list-style-type: none"> 御園地区社会福祉協議会 「みその井戸端喫茶」 	井戸端喫茶のメンバーへ、御園地区の人財の活躍などを切り口に、御園地区のボランティアセンターについて考える機会をつくった。
建部	<ul style="list-style-type: none"> たてべの福祉を語る場 たてべの地域づくりを考える会 	コミセンサロンが地区ボラセンにできないか、運営状況などを情報収集した。たてべの福祉を語る場でサロンの情報交換をする中で、人財の発見ができ、サロンが活躍の場になっていることがわかり、第2層協議体で人財発掘と活躍の場づくりについて協議した。
八日市	<ul style="list-style-type: none"> 第2層協議体設置へ向けた話し合い 	第2層協議体設置へ向けた話し合いの場において、人財の発見についての話題が出たことをきっかけに地区ボランティアセンターについて説明した。
南部	<ul style="list-style-type: none"> 南部地区住民福祉活動計画ワーキング会議 	「ほっとまちカフェ」をどういう場にしたいか、願いを話し合い、通じて地区ボランティアセンターの機能を持てるよう働きかけた。
永源寺	<ul style="list-style-type: none"> 住めば都プラン推進会議 	“得意を活かせる永源寺” “やってみたいができる、相談できる永源寺” を目指して、地区ボランティアセンターの機能について、話し合った。
五個荘	<ul style="list-style-type: none"> 五個荘地区社会福祉協議会 	地区ボランティアセンターの設置に向けた協議をするために、地区社協へ地区ボラセンの意義等を伝えた。
愛東	<ul style="list-style-type: none"> ボランティア連絡協議会 愛東くらしの会議 	ボランティアの育成や活動の情報交換の場が必要との声が上がっており、地区ボランティアセンター設置について説明を行った。 愛東くらしの会議にて、地区ボランティアセンターをイメージしてもらえよう説明を行った。
湖東	<ul style="list-style-type: none"> まちづくり協議会 福祉部会 湖東の支え合いを考えるプロジェクト 	湖東地区に今必要な地域づくりを話し合う中で、地区ボランティアセンターの機能をコミセンを拠点に持つことができないか投げかけた。
能登川	<ul style="list-style-type: none"> 地区住民福祉活動計画推進会議 ちょこっとサポートのりがわ 	推進会議やちょこサポメンバーに地区ボランティアセンター勉強会に参加してもらい、そこでの気付きや感じたことをもとに、地区に合ったカタチで進めていくために必要なことを推進会議のメンバーで協議した。

蒲生	・第2層協議体 わいがや支え合い蒲生	まち協で検討されている「蒲生まるごとおたすけ隊(人財バンク)」が地区ボランティアセンターとしての機能をもつことから、その人財バンクへの立ち上げに関わった。 人財バンクと人財が活躍できる機会を拠点づくりについて、第2層協議体である「わいがや支え合い蒲生」で検討をはじめた。
----	-----------------------	--

◎地区ボランティアセンターの活動支援

住民主体の運営や住民ならではの柔軟な活動を支援し、住民が住民の相談を受け、必要な資源へつなぐ取り組みを支援しました。

地区	どのような場に	ワーカーの関わり・内容
中野	中野地区ボランティアセンターを考える会	「いきがづくり」や「健康づくり」をテーマに、誰もが人財として活躍できる機会づくりを支援した。

<成果>

地区ボランティアセンター勉強会を開催し、住民に東近江市がすすめる福祉のまちづくりと地区ボランティアセンターについて、具体的にイメージし、楽しいもの、実現可能なものと感じてもらうことができ、設置へ向けた後押しができました。

勉強会后すぐに、続きを地区で話し合っていきたいという声も聞かれ、市内での地区ボランティアセンターづくりの機運が高まりました。

各地区ごとの働きかけにより、地区の状況にあった地区ボランティアセンターの形が見え、設置の見通しができた地区が増えました。



2. 生活支援体制整備事業 第1層協議体の開催と第2層へのはたらきかけ <地域福祉課>

◎地域支え合い推進協議体 いっそう元気！東近江(第1層協議体)の開催

市域全体で住民や医療福祉の専門職、暮らしに関わる様々な人や団体が、それぞれの強み弱みを持ち寄り、制度の枠にとらわれない支援や地域づくりについて協議する場として『地域支え合い推進協議体 いっそう元気！東近江』を開催しました。東近江市で課題となっている3つテーマについて、重点的に取り組みました。また、2層域(地区)の協議体やコーディネーターの役割や機能について話し合い、その実践につなげていけるよう協議しました。

■地域支え合い推進協議体 いっそう元気！東近江（第1層協議体）の開催

日時	内容	参加者
令和元年 7月30日(火) 19:00～20:30	第10回地域支え合い推進協議体 いっそう元気！東近江 ○住民と専門職がつながるプロジェクト 寸劇発表 ○グループ懇談①（近江温泉病院 OT より課題提起） 「リハビリが必要な方の退院後の暮らしと地域でのつながり」 ○グループ懇談② 「東近江市における第2層協議体を考える」	35名
12月6日(水) 13:00～15:00	第11回地域支え合い推進協議体 いっそう元気！東近江 ○学習会「心豊かに暮らせる地域づくりを目指して ～いっそう元気！東近江のこれからを考える～」 講師：仙台白百合女子大学 人間学部 准教授 志水 田鶴子 氏 ○グループ懇談 「住み続けたい地域にするために～第2層の地域づくりに活か せそうなこと～」	27名
令和2年 3月23日(月) 19:00～20:30	第12回 地域支え合い推進協議体 いっそう元気！東近江 ※コロナウイルス感染拡大防止により延期	

(いっそう元気！東近江での話し合い)



<成果>

- ・各プロジェクトで話し合ったことをもとに、モデル地区を指定し、第2層協議体メンバーといっそう元気！東近江プロジェクトメンバーが協働して実践し、他の地区でも活用できるツールの検証ができました。
- ・「いっそう元気！東近江」メンバーの学習会を行い、協議体の役割や機能について考えたことにより、「いっそう元気！東近江メンバー」が協議体の必要性を理解し、市社協地区担当とともに地区に応じた働きかけを行い、第2層協議体の設置が大きく進みました。

◎地域支え合い推進協議体 いっそう元気！東近江 プロジェクトの開催・運営

①住民と医療・福祉の専門職がつながるプロジェクト

会議開催回数	プロジェクトメンバー
7回	民生委員・児童委員 / ケアマネジャー / ホームヘルパー 看護師（訪問看護） / 作業療法士（訪問リハビリテーション） 管理栄養士 / 特別養護老人ホーム職員 小規模多機能型居宅介護支援事業所ケアマネジャー 市福祉総合支援課職員 / 市社協地域福祉課担当者
プロジェクトで検討したこと	
<p>○住民や専門職の“自立支援”や“豊かなくらし”に対する意識をかえていく方法を探る。</p> <p>○啓発のための寸劇の検討と作成。</p> <p>○専門職向けの研修会の検討。</p> <p>○地区域で住民と専門職がつながるためにどうするのか。</p>	
プロジェクトで取り組んだこと	
<p>○寸劇「退院後の暮らし、あなたならどうする？」の発表と懇談 能登川地区『ちょっと寄りまいか』 / 八日市地区『皇美麻サロン』 五個荘地区『川並サロン』 / 『訪問介護会議（市内ホームヘルパーの話し合いの場）』 市主催『地域から医療福祉を考えるフォーラム』</p> <p>○住民や専門職へ寸劇の参加呼びかけ・出演依頼の募集</p> <p>○専門職研修会『くらしの豊かさを考える研修会』の開催</p> <p>○『東近江市地域福祉フォーラム』でブース出展による啓発活動（寸劇の映像上映・出演依頼・出演者募集）</p>	

（寸劇と懇談の様子）



<成果>

- ・住民と医療福祉の専門職がつながり合い「暮らしの豊かさ」を支える大事さを発信する寸劇のシナリオが完成。
寸劇を通して、住民には自分の暮らしを豊かにするために、専門職の力を上手に活用していくことを考えてもらう機会となりました。また、専門職に対しては、日頃の支援で介護保険サービスでは手が出せない困りごとについて、地域住民と一緒に考えていくことが大事であることを伝える機会をもつことができました。
- ・住民と医療・福祉の専門職がつながるためには、互いが出会って話し合い、互いの強みを活かして連携していくイメージを共有する機会が必要であることがわかりました。

②暮らしを豊かにするための外出支援プロジェクト

会議開催回数	プロジェクトメンバー
8回	生活支援サポーター / 移送ボランティア / ケアマネジャー シルバー人材センター職員 / 特別養護老人ホーム職員、コンビニ店長 玉緒地区住民福祉活動計画推進会議メンバー 市福祉総合支援課職員 / 市社協地域福祉課担当者
プロジェクトで検討したこと	
<p>○今ある資源の活用方法がわかりやすければ、解決できることもあることから、外出支援に関するニーズの把握や今ある資源の整理について検討。</p> <p>○公共交通機関が少なく、外出支援のしくみづくりを考えておられた玉緒地区に働きかけ、玉緒地区住民福祉活動計画推進会議と協働し、暮らしを豊かにする外出支援について検討。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ちょこっとバスを活用した「おでかけツアー」の企画、「おでかけガイド」の企画 ・社会福祉法人の車両の活用について検討。 <p>○外出支援に関わる担い手の育成と研修会の企画。</p>	
プロジェクトで取り組んだこと	
<p>○玉緒地区での暮らしを豊かにするための外出支援の検討・実践</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ちょこっとバスを活用した「おでかけお楽しみツアーin 奥永源寺」の実施 ・ちょこっとバスを活用した「おでかけガイド（買い物編・通院編）」の案作成 ・『社会福祉法人布引会 玉園ハイム』の車両貸出のしくみづくり <p>○各研修会・懇談会の共催・協力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 6/19（水） 東近江市協働ラウンドテーブル『まちのわ会議』開催協力・参加 (主催：東近江市協働ラウンドテーブル運営委員会) ・ 2/20（木） 『おでかけ支援を考える会』開催協力・参加 (主催：第2層協議体 愛東くらしの会議) 	

(プロジェクト会議・研修会)

(おでかけツアーin 奥永源寺)



<成果>

- ・外出支援が課題となっていた玉緒地区へ働きかけ、公共交通機関である『ちょこっとバス』を活用した「おでかけツアー」をモデル実施。楽しみながら使い方を知る機会となり、余暇的な支援に『ちょこっとバス』が活用できることがわかりました。
- ・社会福祉法人布引会 玉園ハイムに働きかけ、車両の貸出規定やルールが完成し、住民による移送支援への活用や、他福祉事業所へ働きかける際のツールができました。移送支援に取り組みを進めたいとの思いがあっても「自家用車で送迎したくない」という声に対応する一つのしくみとして考えていけることが実証できました。

③農で活躍プロジェクト

会議開催回数	プロジェクトメンバー
5回	生活支援サポーター / 生協コープ滋賀職員 / ホームヘルパー 図書館職員 / 御園地区住民福祉活動推進会議メンバー 御園地区コミュニティセンター館長 市福祉総合支援課職員 / 市社協地域福祉課担当者
プロジェクトで検討したこと	
<p>○農村集落に休耕田が多く、新興住宅に野菜づくりをしたい人が多いことから、畑づくりで居場所づくりができないかを考えておられた御園地区に働きかけ、御園地区住民福祉推進会議協働し、「いきがい農業」の推進について検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・野菜のおすそわけ通じた住民同士の交流、野菜づくりを「いきがい」と感じる機会の検討。 ・野菜づくりをしたい人のための『野菜づくり講習会』の企画とふりかえり ・御園地区における畑づくりを通じた仲間づくりの取り組み状況の共有 	
プロジェクトで取り組んだこと	
<p>○御園地区における『おすそわけ野菜市』の開催</p> <p>日 時 令和元年11月29日(金) 10:00~11:30</p> <p>場 所 御園コミュニティセンター</p> <p>内 容 野菜おすそわけ、炊き出し(ふろふき大根・焼き芋)、生協キッチンカー 井戸端喫茶(御園地区社協)、野菜づくり図書コーナー、野菜づくり相談コーナー</p> <p>参加者 90名(御園地区の住民、野菜づくりに興味のある方など)</p> <p>共 催 御園コミュニティセンター、御園地区まちづくり協議会 御園地区社会福祉協議会、御園地区住民福祉推進会議、東近江市永源寺図書館</p> <p>○『野菜づくり講習会』の共催</p> <p>日 時 第1回:令和元年7月18日(木) / 第2回:令和2年2月19日(水)</p> <p>場 所 御園コミュニティセンター</p> <p>内 容 講演「野菜を楽しく、安心安全に育てるコツ」 講師:JAグリーン近江 営農指導講師 藤井 和彦 氏</p> <p>参加者 JAグリーン近江女性部・御園地区住民</p> <p>共 催 御園コミュニティセンター / JAグリーン近江女性部</p>	

(おすそわけ野菜市と講習会)



<成果>

- ・「おすそわけ野菜市」と「野菜づくり講習会」を軸に『いきがい農業』の推進を図り野菜づくりが「いきがい」につながることを第2層(御園地区)で周知できました。

- ・「おすそわけ野菜市」の準備を進める中で、御園地区で関わる人が増え、輪が広がり実際に野菜づくりを仲間づくりにつなげることができました。御園コミセン横の畑では、その仲間が野菜を育て畑が居場所になっています。
- ・御園地区への働きかけを通して、地区に応じた『いきがい農業』の推進が、地域住民の交流の機会を増やし、地域づくりにつながるツールになることが実証できました。

◎第2層協議体・地域支え合い推進員の設置にむけたはたらきかけ

- ・全ての地区において、自分の地区ならどういった話し合いの場があれば地域づくりを有効に進められるか、各団体の強みを活かし弱みを補い合えるかを考え、地区の課題解決も見据えたカタチで協議の場を作っていけるよう働きかけた。

<第2層協議体・地域支え合い推進員の設置状況>

地 区	設置時期	第2層協議体	地域支え合い推進員
平 田	検討中	地区のまちづくりに関わる人や団体が参加する『まち協 まちづくり会議』に位置づけることを、まち協事務局長（コミセン館長）と検討中。	未定
市 辺	検討中	まち協会長・まち協事務局長・推進会議座長（地区社協会長）・コミセン館長と『新たな協議体』を設けていく方向で検討中。	未定
玉 緒	検討中	地区社協役員で『玉緒地区住民福祉計画推進会議』を第2層協議体に位置付けることを検討中。	未定
御 園	R1	現在は『まち協 企画運営委員会』に位置づけ。今後は、まち協・地区社協・住民福祉推進会議と『新たな協議体』を再編していく。	未定
建 部	H30	地区社協・まち協・民児協・自治連・福祉専門職が参加する『建部の地域づくりを考える会』に位置づけ。地区社協がその運営を行う。	『住民コーディネーター』を設置する方向で検討中
中 野	H29	住民福祉活動計画を推進する『なかのよいまち推進会議』に位置づけ。地区社協がその運営を行う。	地区ボランティアセンター 『住民コーディネーター』
八日市	R1	令和元年度のまち協・地区社協・自治連・民児協・コミセン代表者が核メンバーとなり、まち協組織の中に『新たな協議体』設ける。	『住民コーディネーター』を設置する方向で検討中
南 部	検討中	まち協福祉部に位置付けられている『住民福祉活動計画ワーキング会議』を再編していくことを、まち協福祉部長、コミセン館長と検討中。	未定
永源寺	検討中	輪つなぎ企画会議・まち協・地区社協・民児協・住めば都推進会議で検討し『新たな協議体』を設ける。	未定
五個荘	H30	『住民福祉活動計画推進会議』に位置づけ、まち協と地区社協が協働開催し、六心会に事務局を置く。	社会福祉法人六心会 地域づくり担当職員

愛 東	R1	地区社協が運営する『愛東くらしの会議』に位置づけ、まち協福祉プロジェクトと同時開催。事務局はあいとうふくしモール ほんなら堂に置く。	NPO あいとうふくしモール ほんなら堂職員
湖 東	R1	『湖東の支え合いを考えるプロジェクト』に位置づけ、まち協福祉部会が事務局となり運営。	未定
能登川	R1	『住民福祉活動計画推進会議』に位置づけ、メンバーの再編とその母体となる組織（地区社協を想定）について推進会議メンバーと検討中。	未定
蒲 生	R1	地区の福祉のまちづくりに関わる住民や福祉の専門職が参加する『わいがや支え合い蒲生』に位置づけ。地区社協がその運営を行う。	『住民コーディネーター』を設置する方向で検討中

◎第2層協議体研修会『地域を元気にする協議体セミナー』の開催

（※新型コロナウイルス感染拡大防止により、来年度へ延期）

第2層協議体の必要性やこれまでの地域づくりに加えて、どんなことを意識したら良いのかを考える機会として開催する。また、今地区にある資源や活動を活かしながら、さらに支え合いの地域づくりが活性化していくきっかけとする。

日 時 令和2年3月18日（水）19：00～21：00

場 所 蒲生コミュニティセンター小ホール

内 容 講演『地域を元気にする協議体づくり

～つながり、支え合いを地域づくりにどう生かすのか？～』

講師 ご近所福祉クリエイター 酒井 保 氏

<成果>

- ・生活支援体制整備の根幹である「いきがづくり」や「介護予防」、「支え合いのしくみづくり」をねらいとした第2層協議体が9地区で設置され、地区に応じた運営をされるようになりました。
- ・市の『第2層協議体運営業務公募型プロポーザル』について、全ての地区に説明を行い、その地区の地域づくりの状況に応じたカタチで、各地区における第2層協議体の設置を考える機会をもつことができました。・地域支え合い推進員の設置については、建部地区・八日市地区・蒲生地区で、第2層協議体ので取り組みを進める人として選任することを検討中。具体的には集いの場の発見と見える化を進めるなど、地区に応じたカタチでその役割を明確にして人選をしていく流れをつくることができました。

3. 社会福祉調査の実施<地域福祉課>

行政が把握している情報とは異なった、さまざまな課題を抱え支援を必要とする人の実態を、民生委員・児童委員と協働して調査を実施しました。また、H28～H30の調査結果をもとに地区ごとに支援が必要な人の人数を集計し、その傾向をまとめた資料を作成し、民生委員・児童委員の日頃の活動に活かしてもらうことができました。

4. 災害時に助け合えるしくみづくり<地域福祉課>

災害時を想定した災害ボランティアセンター立ち上げ訓練や、関係団体、機関との連携・支援体制づくりについて検討しました。

◎災害ボランティアセンター設置・運営訓練の実施

東近江市総合防災訓練では、参加機関担当者会議に参画し、災害ボランティアセンターの設置・運営訓練の実施検討を行いました。

特に、今年度は、より実践的な訓練となるよう、災害フェーズ（発災直後、復旧期、復興期等）を意識した訓練を計画しました。また、地区社会福祉協議会などの地域団体や活動者と連携した災害ボランティアセンターの運営について検討しました。

日時 令和元年9月8日(日) 7:30～10:30

場所 永源寺運動公園グラウンド(主会場)
鈴鹿の里コミュニティセンター(副会場)

■災害ボランティアセンター (実績)

○訓練参加職員…21名

○訓練参加事業所…5事業所

介護老人福祉施設もみじ/GH やすらぎの里永源寺/たけのこ福祉作業所/丸山薬局
ゆうあい HH/DS

○訓練参加団体

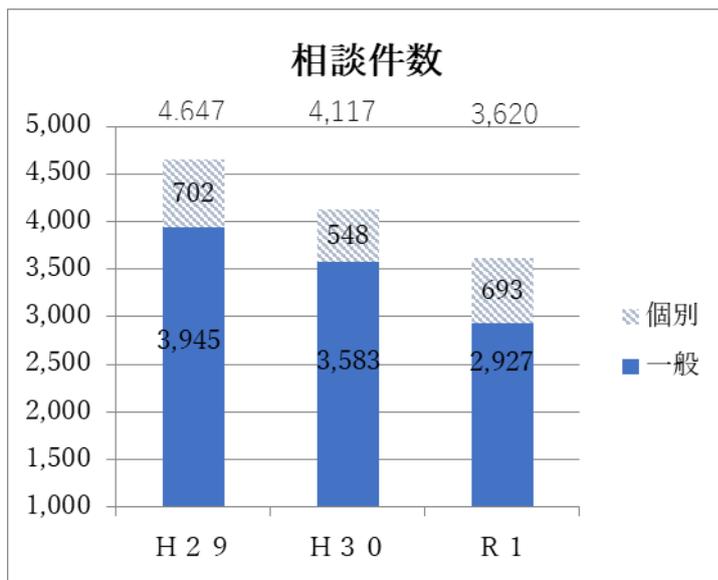
永源寺福祉の会4名、永源寺民児協6名、ラチーノ学院10名、高野町自治会2名
上二俣町自治会5名、山上町自治会5名、青野町自治会3名

<成果>

- ・各フェーズで市社協各課が取るべき動きが確認でき、在宅福祉課は利用者の安否確認の対応にあたるなど、実践にあった訓練を行うことができました。
- ・外国籍の方へ向けた外国語表記の案内や説明様式の作成、相談ニーズを聴く際の聴き所の整理、県社協等の外部機関との連携調整など、新たに備えておくべき課題が見えました。
- ・永源寺福祉の会の協力を得たことで、地元の方が安心して相談でき、ボランティアとしてできることなどを引き出してもらうことができました。今後も地区社協や地元住民と連携した災害ボランティアセンターの運営を考えていく必要性を確認できました。
- ・永源寺福祉の会が、訓練に参加できなかった他の理事にも、災害 VC の役割を知り、福祉の会が災害時にできることを考えていくための研修会を開催されることにつながりました。

5. 職員の専門性を活かした相談支援・総合相談事業<相談支援課>

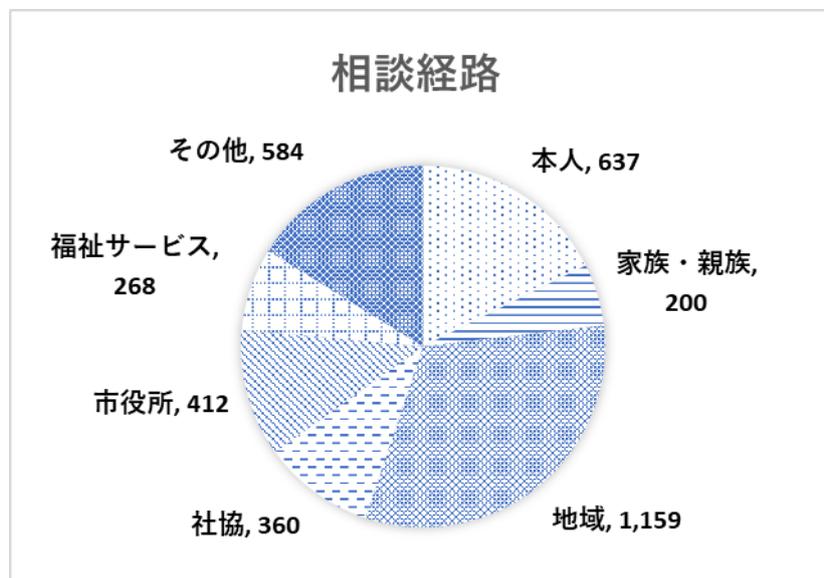
資格(社会福祉士・精神保健福祉士・介護福祉士・介護支援専門員等)をもつ社協職員が、専門的な知識や技術を活かした相談対応を行いました。相談者の困りごとを丸ごと受け止め解決できるよう、行政、他機関との連携に取り組み伴走した支援に努めました。



相談件数は前年度と比べ少なくなりました。市内の相談体制が充実してきたと捉えたいところですが、自ら発信できない困りごとを抱えた方や、どこに相談すればいいのかわからないという方がまだまだおられるということを認識し、相談窓口としての社協の周知、地域と連携した情報収集や発信を行い、今後も相談機能の一層の充実を図っていきます。

相談経路 (単位: 件)

本人	637
家族・親族	200
地域	1,159
社協	360
市役所	412
福祉サービス	268
その他	584
合計	3,620



結果 (単位: 件) 重複有

解決	1,658
社協による相談の継続・支援	1,519
他機関の紹介・引継	490
その他	50



法律相談を紹介	35
心配ごと相談を紹介	5
資金相談	258
緊急食料	123
ボランティア活動の紹介・調整	244
福祉教育の紹介・調整	63
小地域福祉活動の情報提供・支援	125
総合相談・地権へ引継	211
在宅福祉課へ引継	65
その他	394

地域	155
市役所	106
福祉サービス	38
その他	197

6. 法律相談の実施<相談支援課>

日々の暮らしの中の困りごとに、法的な立場から顧問弁護士が助言を行う無料法律相談を実施しました。申し込み受付時に相談者の困りごとをお聞かせいただき、法律的に助言を得たい点を整理し事前に弁護士に報告することで、相談当日の時間が相談者にとって有益なものとなるよう支援しました。

相談件数 45 件

【相談内容】

離婚(調停、養育費、慰謝料等) 11 件、借金 9 件、相続 7 件、土地(登記、売買、トラブル) 6 件
金銭トラブル 2 件、名誉棄損 2 件、インターネットトラブル 1 件、ペットトラブル 1 件、詐欺被害 1 件
養子縁組 1 件、遺産分割 1 件、工事トラブル 1 件、介護トラブル 1 件、不貞 1 件

*解決 29 件 (解決策、法的根拠がわかる、納得等)
 弁護士依頼 6 件 (自己破産、相続関係)
 社協相談 5 件 (家計相談、権利擁護、常設相談)
 外部紹介 3 件 (支援機関等)
 その他 2 件 (答え出ない、納得できない等)

7. 生活困窮者への生活支援<相談支援課>

①家計相談支援事業の実施

家計相談支援事業では、経済的に困窮されている方に、困窮状態から脱し、再び困窮状態にならないための家計のやりくりのアドバイスや、滞納や借金の整理などを支援しました。市自立相談での初回面談時や本会での困りごと相談時に家計相談員が同席することにより、少しでも早い段階からの対応が行えるようになりました。

相談経路 人数・支援内容		自立相談支援事業		合計
		家計相談支援 事業プランあり	家計相談支援 事業プランなし	
支援者数(実人数)		53 名	54 名※	107 名
支援 回数	相談回数	1,080 回	319 回	1,399 回
	家計表作成 キャッシュフロー表作成	100 回	57 回	157 件
	支援調整会議	79 回	6 回	85 回
	合計	1,259 回	382 回	1,641 回

※プランなしから
プランありへ移行
した17名を含む

※プランありの方の状況(53名)

	支援継続中	終了			
		目標達成	ケース連絡会	本人希望	生保移行、他
人数	28	10	8	3	2

【目標達成】 プラン期間 (平均) 8ヶ月 (最長1年2ヵ月 最短 2ヶ月)

モニタリング・評価 (平均) 6.5 回

見られた変化 ・就労収入の増加 ・家計支出の減少
 ・生活面の改善意欲の向上
 ・公的給付の受給による収入の増加
 ・貸付金による一時的な支出への対応

- * 会議等
 - ・ 家計相談支援事業検討会 年 2回
 - ・ 家計相談支援事業ケース連絡会 年 1 2回 (第 2 火曜日)

②生活福祉資金・小口貸付資金事業

生活再建のため、一時的に資金が必要な時に民生委員・児童委員や生活困窮者自立支援制度相談窓口(市)と連携し、生活福祉資金の貸付手続きを行いました。生活福祉資金貸付制度で対応できない方には、本会独自の小口貸付資金を活用しました。また、緊急食料支援や善意銀行の寄付物品の活用、S&S や就労支援につなぐなど、経済的困窮の背景にある課題に着目し、貸付という経済面の支援だけにならない対応に努めました。

生活福祉資金状況

	H29 年度	H30 年度	R1 年度	前年度比較
相談者数	256	238	251	+13
相談回数	544	487	542	+55
貸付件数	25	26	31	+ 5
貸付金額	13,638,000	26,612,000	15,422,000	-11,190,000

貸付資金の種類別件数

	H29 年度	H30 年度	R1 年度
総合支援	2	0	3
緊急小口	7	9	7
福祉費	6	5	9
教育支援	10	11	12
臨時特例	0	0	0
不動産担保型	0	1	0

生活福祉資金の相談者、相談回数は、2月まで前年と同程度でしたが、3月末の特例貸付開始により増加しました。貸付件数は増加していますが、貸付決定総額は減少しています。昨年度にあった一件当たりの貸付決定額が大きい不動産担保型貸付の貸付がなかったためです。

小口貸付では、貸付決定件数 21 件全てが生活保護申請、初回保護費受給までのつなぎとしての借入となっています。

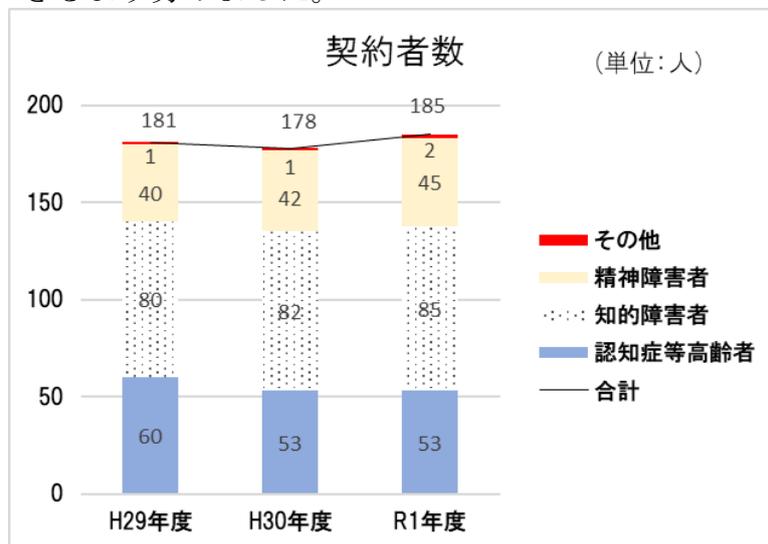
* 貸付金額は貸付決定総額

小口貸付資金

	H29 年度	H30 年度	R1 年度	前年度比較
相談者数	77	58	54	△ 4
相談件数	165	130	152	+ 22
貸付件数	18	10	21	+ 11
貸付金額	452,000	250,000	510,000	+260,000
償還件数	76	75	41	△34
償還金額	477,800	390,800	595,200	+204,400

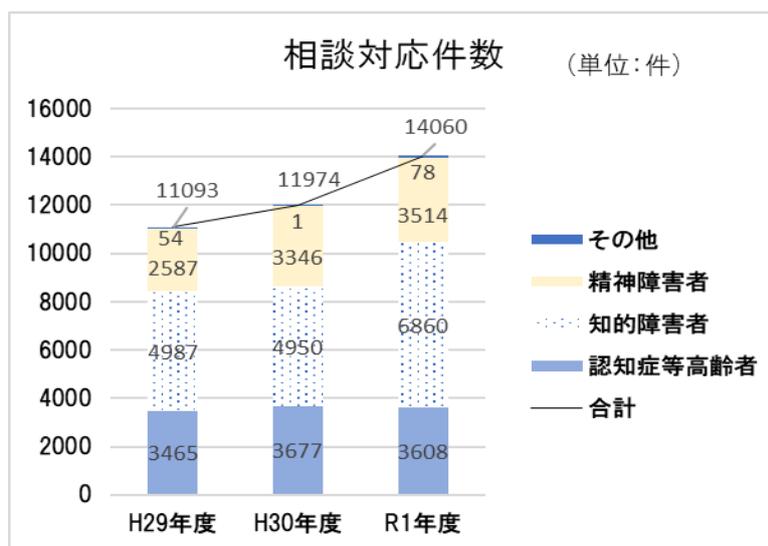
8. 地域福祉権利擁護事業の実施＜相談支援課＞

認知症・精神障がい・知的障がいのある方などが、地域で自立した生活が送れるよう、福祉サービスの利用に関する手続きや日常的な金銭の管理を中心とした支援を行いました。令和元年度は専門員の増員を図り、新規相談や待機者への対応を強化し、相談から契約までの期間を短縮し事業利用希望者にスムーズに支援が提供できるよう努めました。



令和元年度
 新規契約者 20名
 終了者 13名

令和元年度末契約者数
 185名のうち、
 生活保護世帯 49名



相談対応件数は増加。新規契約による調整時間の増加や、複数の生活課題のある方への対応、また日常生活の不安やお金の使い方などの相談など内容は多岐にわたります。

9. 成年後見制度の利用支援＜相談支援課＞

法的に権利を守る成年後見制度を周知し、必要な人が適切に利用できるよう支援しました。

- ①常設相談での成年後見に関する相談への対応 (制度説明)
- ②地域福祉権利擁護事業利用者の後見申し立て支援、新規相談者への相談対応。
- ③困窮者支援との連携や相談対応 (制度説明)
- ④東近江圏域成年後見サポートセンターE-SORA運営への参画
 - ・運営委員会 年2回参加
 - ・運営委員会 (実務者) 年4回参加

10. 在宅福祉サービスの実施と相談機能の充実<相談支援課・在宅福祉課>

(1) 介護保険事業

①訪問介護・訪問介護相当サービス（介護予防）事業

【取り組み】

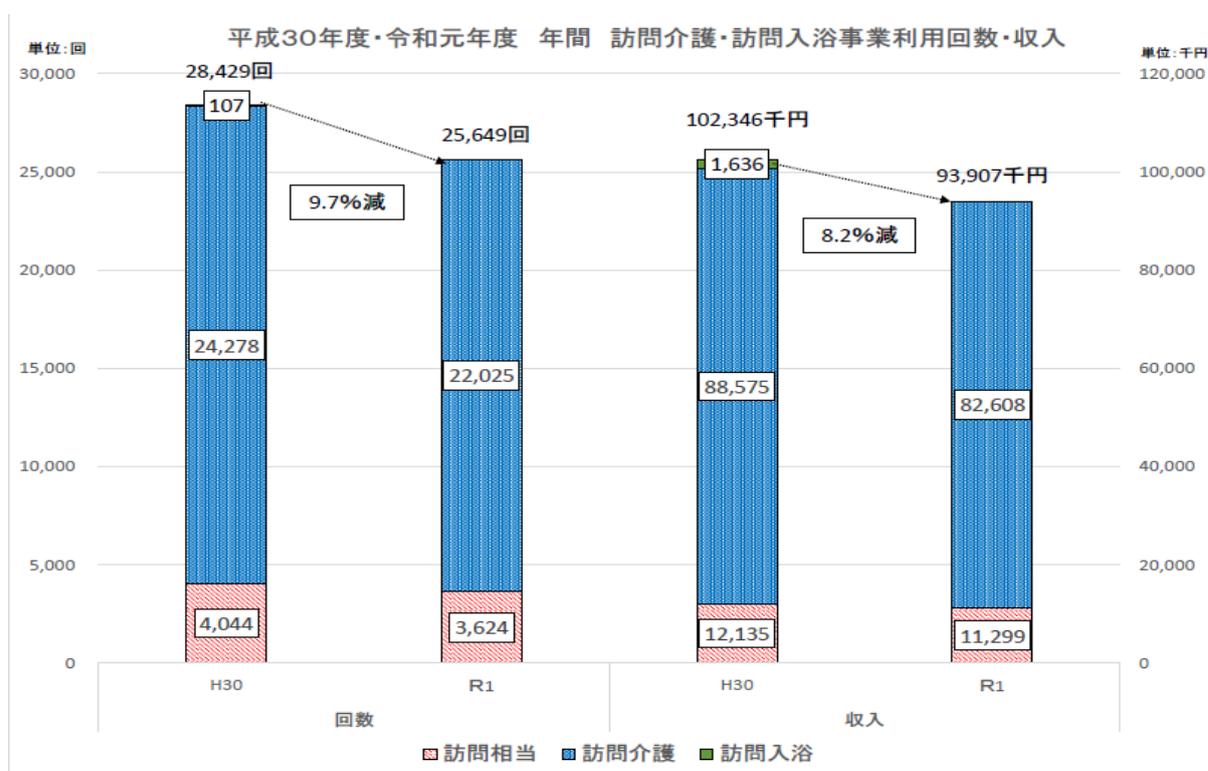
- ヘルパーが訪問している中で気づいたご利用者の思いや困りごとについて地域福祉課と連携しました。

ご利用者の担当者会議に地域福祉課担当者、民生委員にも参加してもらうことをケアマネジャーに提案し、担当者会議でサロンに参加するための話し合いを行い利用者がサロンに参加していただくことができました。

また、困りごとについてボランティアとつながったことで解決に向かいました。

【評価】

- 地域の方とつながりのなかったご利用者と地域の方とのつながりができました。



利用者延べ人数について平成30年度、令和元年度と比較し、ゆうあいの家では143人減、なごみ59人減、せせらぎ6人減でした。主に永源寺、愛東、湖東を活動エリアとしているゆうあいの家ですが、永源寺地区の新規利用者が減っていることが主な原因だと考えています。

収入の減少について、利用者が減少したこと、また、新規依頼があったものの利用回数が少ない利用者であったため、収入増につながりませんでした。

②通所介護・予防通所介護事業

【取り組み】

- 昨年度に引き続き、利用者への支援に必要な視点や技術の習得を目的とした研修実施しました。

【評価】

- ・研修会を生活相談員が中心となり、企画、実施しました。

日程	内容	参加人数
9月 24日 (火)	介護技術 (ベッドからの起き上がり、立ち上がり介助)	35名
11月 1日 (金)	ヒヤリハット・リスクマネジメント	38名
12月 4日 (水)	記録の書き方	26名
1月 24日 (金)	認知症ケア	30名

【取り組み】

- ・介護予防や健康づくりのため、地域の集いの場へ出向きました。

【評価】

- ・定期的に出向いている介護予防教室以外にも各事業所へ自治会のサロンへの依頼があり、体操や脳トレ、小物作りなど自治会の依頼に沿ったプログラムを提供しました。

また、人権のまちづくり懇談会では高齢者の人権というテーマで「認知症について」お話をさせていただきました。

介護予防教室

介護予防教室	期日	内容
大塚町 近所でみんなと 介護予防	6月 5日 (水)、7月 3日 (水) 8月 7日 (水)、9月 4日 (水) 10月 2日 (水)、 11月 6日 (水) 12月 11日 (水)、1月 8日 (水) 2月 5日 (水)	介護予防運動、脳 トレ

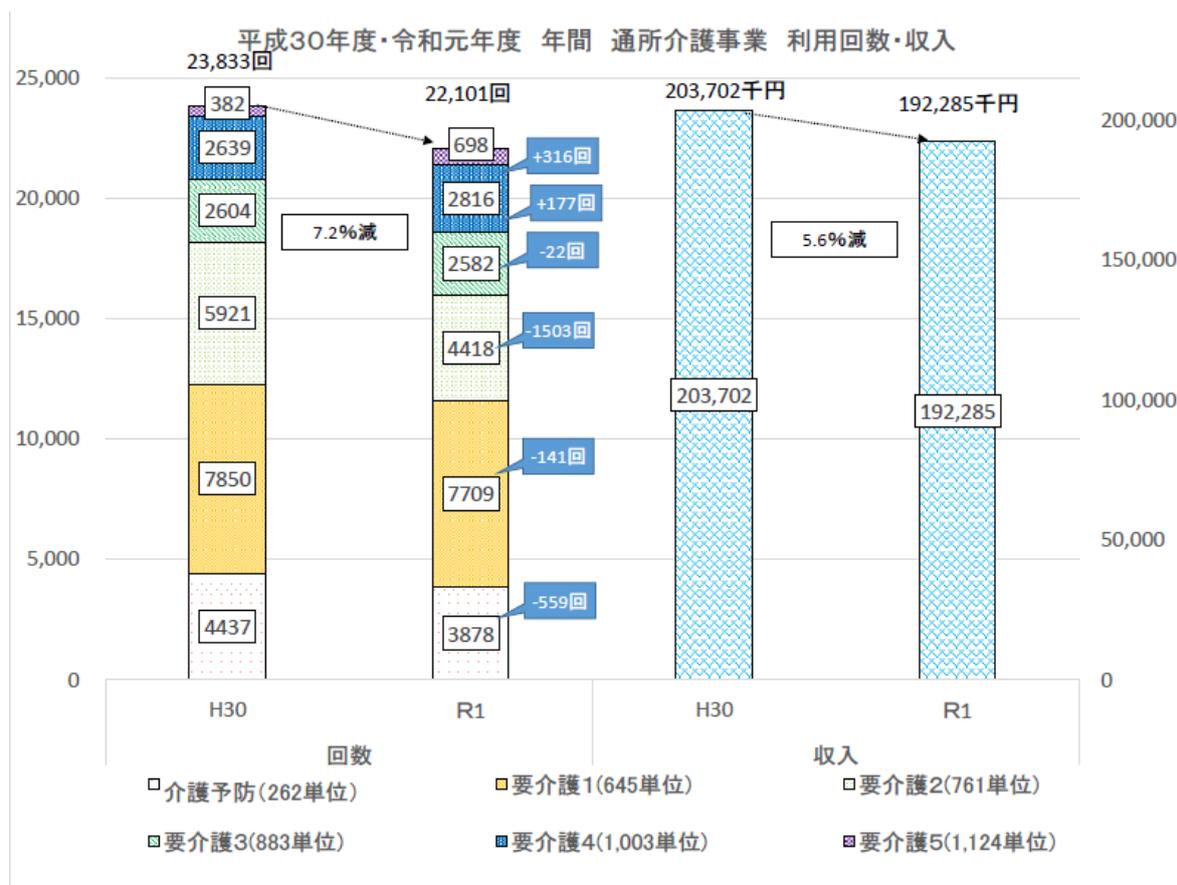


自治会サロン

自治会	期日	内容
三津屋町サロン	6月 17日 (月)	熱中症予防、脳トレ体操
乙女浜町サロン	7月 18日 (木)	体操 (脳トレ)、レクリエーション
神郷町サロン	8月 10日 (土)	体操 (脳トレ)、レクリエーション
大塚町サロン	9月 11日 (水)	体操 (脳トレ)、レクリエーション
相谷町サロン	10月 8日 (火)	体操 (脳トレ)、レクリエーション
長峰町サロン	10月 20日 (日)	小物作り
高木町サロン	11月 10日 (日)	体操 (脳トレ)、レクリエーション

人権のまちづくり懇談会 (認知症について)

自治会	期日
今崎町	10月 19日 (土)
乙女浜町	10月 19日 (土)
船岡町	10月 19日 (土)
金屋町	10月 25日 (金)
和田町	11月 9日 (土)



通所介護事業全体で、前年度比は利用回数、収入とも減少しています。特にハートピア、なごみ、ゆうあいの家での減少が大きく、新規利用者の獲得もできていません。こうした現状を脱するために利用者獲得に向けて、生活相談員会議や管理者会議で事業所の特徴や意見を交換しました。

③認知症対応型通所介護事業 「ちやがゆの郷」

【取り組み】

- ・「ちやがゆの郷☆カフェ（認知症カフェ）」の開催や避難訓練に地域の方々に参加していただくなど地域との交流を行いました。

【評価】

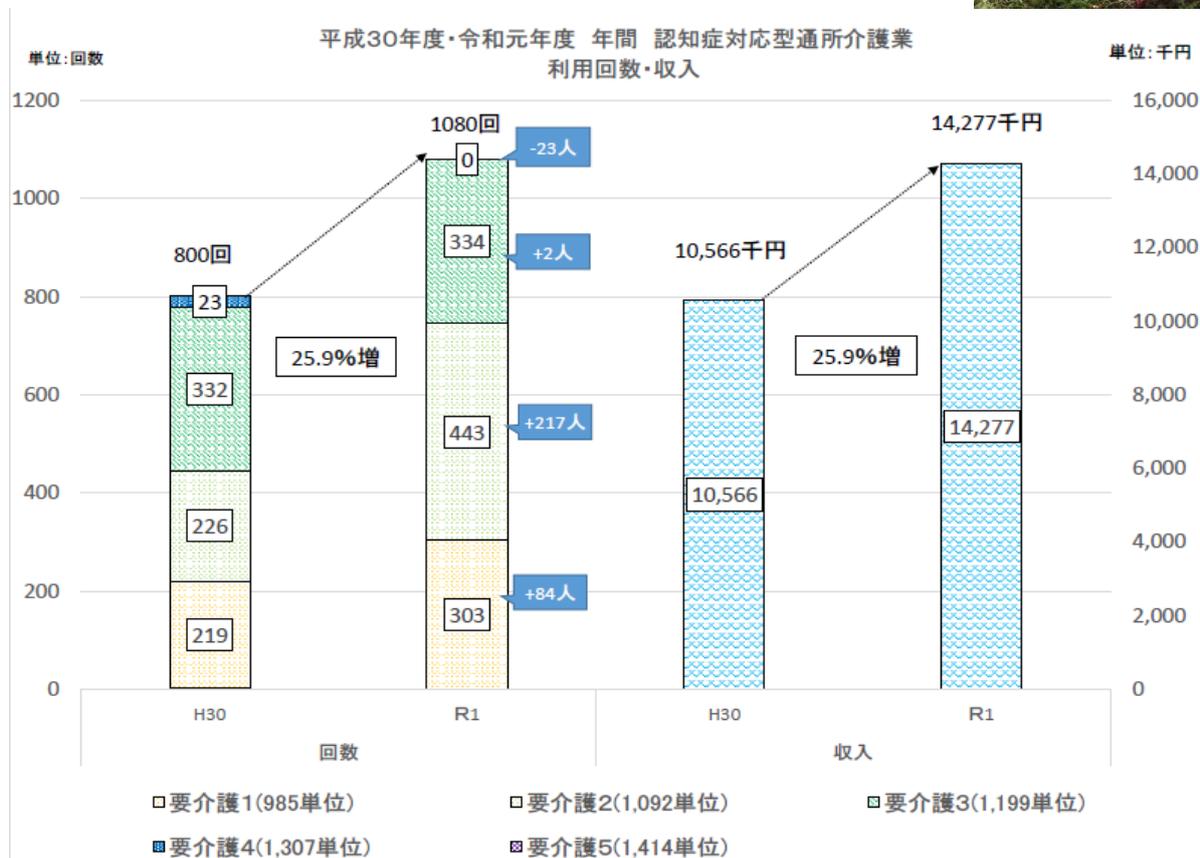
- ・毎月開催している「ちやがゆの郷☆カフェ（認知症カフェ）」には、地域の方々が集い、ご利用者とお話などを楽しんでいただきました。避難訓練では、地域の方々とご利用者が避難を一緒に行っていただきました。また、地域の方から事業所にある「AEDを借りる場合があるかもしれない」ということでAEDの設置場所を確認していただきました。いざという時のための地域の方々と連携できる仕組みづくりを行いました。

【取り組み】

- ・ご近所の方から畑をお借りし、ご利用者さんと一緒にサツマイモの苗を買いに行くことから取り組み、一緒に育てました。

【評価】

- ・生育の様子を畑まで見に行くことが運動になり、下肢筋力の強化や機能訓練につながりました。こうした取り組みでご利用者同士のコミュニケーションも活発になりました。実際に採れた芋を手にし、利用者のいきいきとした表情につなげることができました。



小規模で落ち着いた雰囲気があることやご利用者それぞれのケアについてケアマネジャーと連携を図ることが、利用に関する相談が増え、実利用者が増えることにつながりました。

④小規模多機能型居宅介護（介護予防）事業 「かじやの里の新兵衛さん」

【取り組み】

- ・ご利用者と一緒によもぎ餅を作り、日頃からお世話になっている地域の方々へ配りました。また、事業所の近くの幼稚園との交流会を行いました。

【評価】

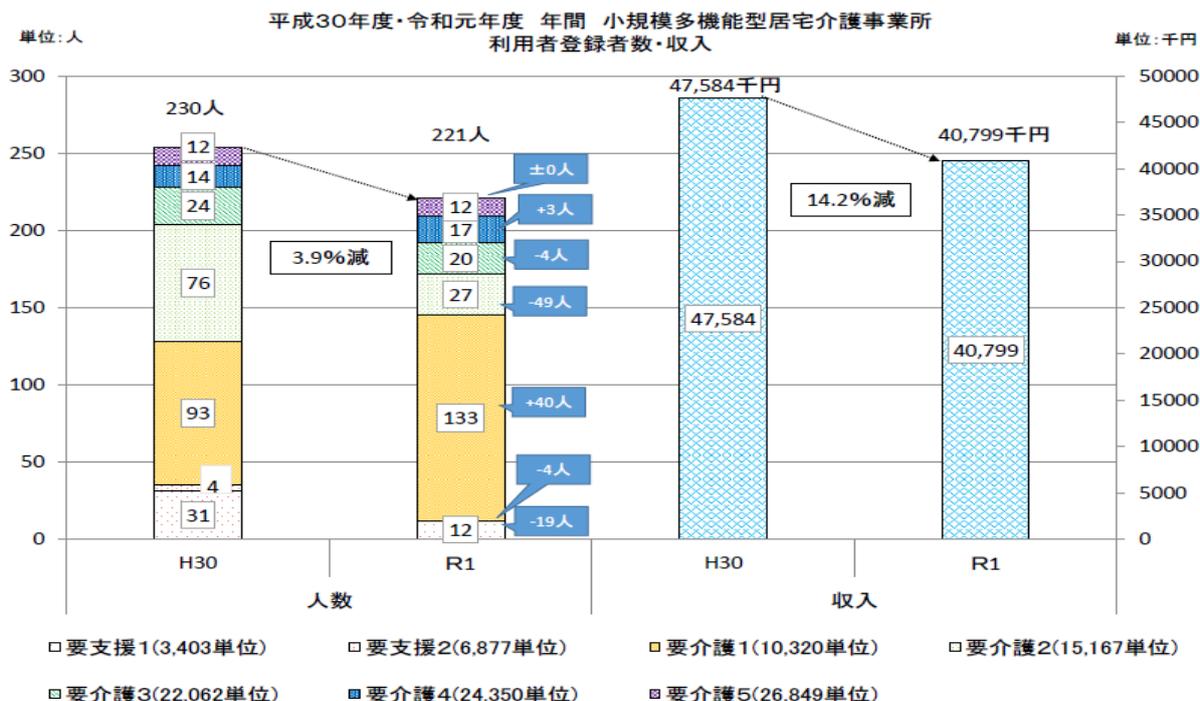
- ・よもぎ餅作りは、ご利用者の皆さんは、昔されていた方が多く手際よく作ってくださいました。ご利用者と一緒に地域の方々へお配りすると喜んでいただきました。
- ・幼稚園との交流会は年間6回参加し、園児たちとご利用者の皆さんとが和やかに交流することができました。こうした地域との交流は、ご利用者の持つおられる力を発揮していただく大きな機会となっています。これらの取り組みを通して、地域の介護事業所として知っていただくことができました。

【取り組み】

- ・避難訓練の実施、敷地のブロック塀の取替え工事を行いました。

【評価】

- ・日中や泊り時間を想定した避難訓練を行いました。ご近所の方に夜間は職員が一人体制となるため、ご利用者に速やかに移動していただくための方法の確認などを行いました。
- ・施設の大部分を囲うブロック塀を地震での倒壊を防ぐため、国の補助金制度を活用し、アルミフェンスに取替えを行いました。



6月以降施設入所等で登録者数減少し、新規登録者が少なかったことで収入が減少しました。運営推進会議で事業所のPR活動を積極的に行うアドバイスをいただき、医療機関や行政などへ空き状況を伝えるなどの活動を強化し、利用の紹介に結び付けることができました。

(2) 障がい（児）者福祉サービス事業

障害者差別解消法が施行されましたが、その認識は十分とは言えず、今後も事業運営の中で障がいのあるなしに関わらず、お互いに人格と個性を尊重し合いながら共生できる社会づくりを目指したサービス提供に努めます。

①障がい者相談支援事業（指定特定相談支援事業・相談支援事業）

- ・指定特定相談支援事業

障がいのある方やその家族からの相談に応じ、福祉サービス利用に関する情報提供、専門機関の紹介や調整を行い、利用者の意思を尊重したサービス計画の作成を行いました。行政や関係機関との即応した情報共有や連携を行い、変化する利用者の状況や環境に応じた計画の見直し・調整を行い、本人が望む生活支援に取り組みました。また、法定研修だけでなく、引きこもりやアディクションなど社会情勢に応じた研修に積極的に参加し、相談支援専門員の資

質の向上を図りました。

	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	前年度比
(年度末)契約者数	202	184	182	△2
計画作成数	191	156	161	+5
モニタリング数	186	332	473	+141

・相談支援事業(委託)

障がい者の方々からの、日常的な困りごとや制度説明など行ってきました。また、社協の窓口寄せられる相談では、困りごとの背景に本人や家族が障がいをお持ちであることに気づいておられないことがあります。困りごとを丁寧に聞き取り、必要に応じて専門機関と連携し、相談者の抱える潜在的な課題に着目した支援を行いました。

	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	前年度比較
相談件数	2,713	2,974	3,953	+979

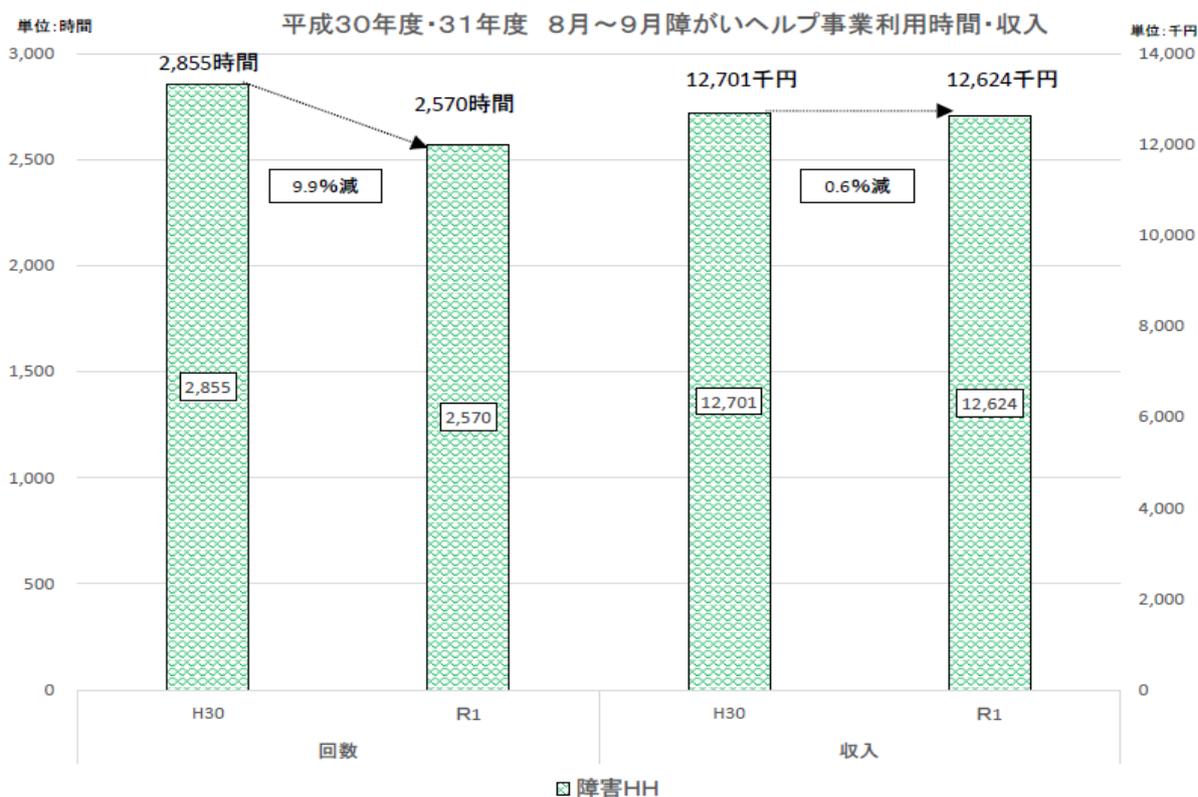
②居宅介護（障がいホームヘルパー）事業の実施

【取り組み】

- ・金銭的なことや、会社での働き方、同居の家族のこと等、ご利用者の困りごとを相談支援課や他機関に発信しました。

【評価】

- ・相談支援課や他機関に発信することで、ご利用者の働き方を踏まえた支援や、世帯全体を考えた支援をすることができました。



利用者の延べ人数、利用回数とも減少しています。入院や施設入所、また65歳になり介護保険に移行された方があり利用者が減少しました。

新規依頼もありましたが、人員体制が整わず、受けきれなかったケースもありました。

(3) 在宅関連受託事業

①高齢者福祉関連

◎住居提供事業（永源寺事務所「ゆうあいの家」）【委託】【自主】

【取り組み】

- ・ 冬季（12月末～3月）の間一人暮らしなど生活に不安のある方の住まいとして、ゆうあいの家で受け入れを行いました。
- ・ 委託事業対象者だけで、施設の定員を越えなかったため、本会の判断により、委託事業外の方であっても必要とされる方の受け入れを行いました。

【評価】

- ・ 入居者のご家族から「冬の間は実家（東部）に行きづらいが、ゆうあいの家なら今まで通り、顔を見に行くことができる。」と喜ばれました。
- ・ 入居者同士が毎日のように集まって、井戸端会議をされるなど楽しく過ごされていました。
- ・ 委託利用の方が、入居中に体調不良になられたこともあり、事務所職員と宿直職員が連携し、本人の状態確認を行い、家族と連絡調整を行いました。また他の入居者も声をかけていただきました。

【委託】 受け入れ人数 1人 延べ日数 57日

【自主】 受け入れ人数 2人 延べ日数 176日

(2) 認知症高齢者見守りネットワーク事業 【委託】

デイサービスセンターちやがゆの郷

小規模多機能型居宅介護事業所かじやの里の新兵衛さん

【取り組み】

- ・ 自治会で開催される「認知症・声かけ見守り訓練」へ職員が参加しました。
- ・ 職員が認知症理解のための事前学習会を行い、認知症の方が行方不明になられたことを想定しての声掛け訓練を行いました。

【評価】

- ・ 自治会と協力し、地域の方への認知症の理解や認知症による行方不明者への対応について理解を進めることができました。

期日	自治会	事業所
11月9日（土）	神郷町	デイサービスセンターちやがゆの郷
11月10日（日）	乙女浜町	デイサービスセンターちやがゆの郷
11月17日（日） 24日（日）	東市辺	小規模多機能型居宅介護かじやの里の新兵衛さん

【取り組み】

- ・ 認知症カフェの開催
 デイサービスセンターちやがゆの郷
 毎月第2月曜日 14時～16時
 小規模多機能型居宅介護事業所かじやの里の新兵衛さん
 毎月第2、第4木曜日 13時～16時

【評価】

- ・ 認知症カフェを通じて、地域の方々と顔なじみになり気軽に話せる関係作りができました。

②障がい児(者)福祉関連

◎地域生活支援事業（移動支援事業）

事業名	事業所	延契約者数 (人)	延利用回数 (回)
移動支援サービス	ヘルプステーション ゆうあいの家・なごみ・せせらぎ	28	42
ガイドヘルプサービス	ヘルプステーション ゆうあいの家・なごみ・せせらぎ	102	253

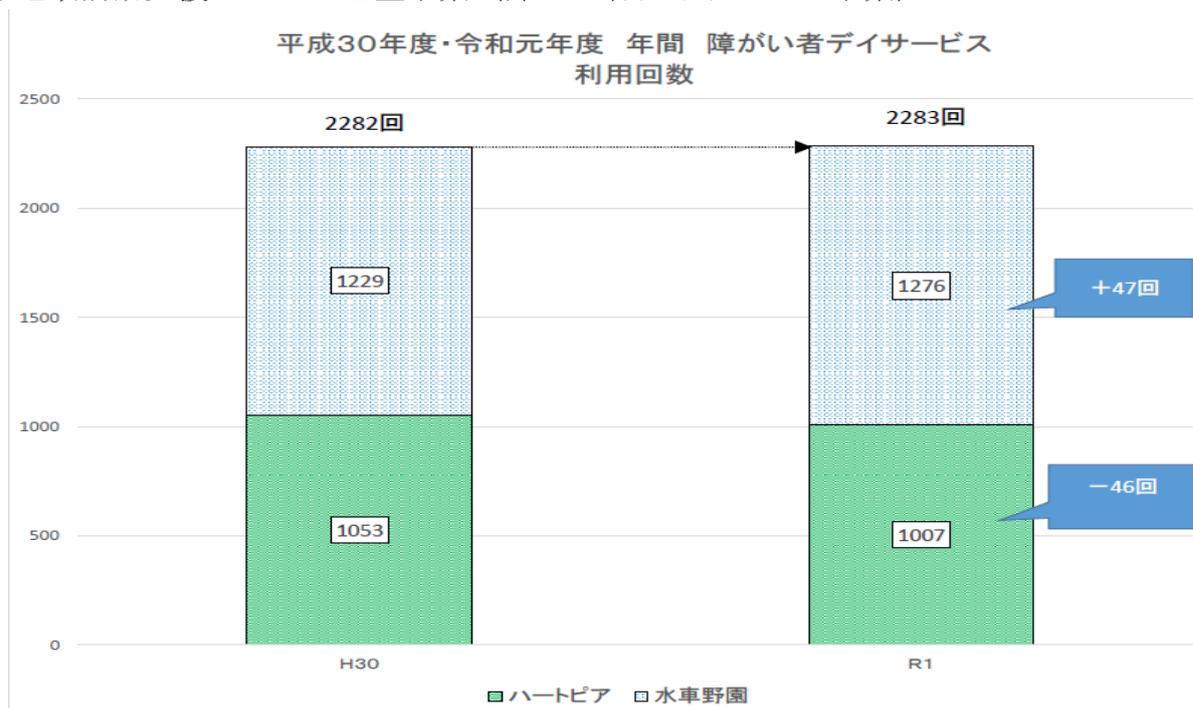
【取り組み】

- ・ 余暇活動への同行や買い物介助、通院介助を行いました。

【評価】

- ・ 買い物介助についてヘルパーが同行することで、食材に関するアドバイスやあらかじめ使える金額をヘルパーに伝えておくことで金額を考えて買い物ができたと利用者から喜ばれました。

◎地域活動支援センターⅡ型事業（障がい者デイサービス事業）



ハートピア、水車野園ともに事業開始から25年あまり経つ中で様々な障害福祉サービスが充実してきたこと、事業実施要綱の目的が一定達成されたことをうけ、令和元年度で事業終了となりました。終了に際しては、社協担当職員、東近江市担当職員が相談支援専門員や介護支援専門員と連携しながら、ご利用者との個別面談を行いました。ご利用者の中には事業が終了することに対して「楽しく利用できた」とおっしゃっていただいた方もあれば、事業が無くなることへの不安や不満を述べられる方もおられました。特にご自身で移動手段がない方は、外出機会がなくなる不安を持たれていました。こうした不安のある方やサービス変更が必要な方については、お一人おひとり面談を重ね、介護保険サービスや他の福祉サービスへ引き継ぎ支援を行いました。その他にも、この事業を通じてお知り合いになられた方同士で交流の場の継続を考えられる方や水車野園を貸館利用した講座への参加を希望される方がおられました。

平成5年より事業を運営し、たくさんの方にご利用していただくことができました。事業が終了する3月には、ハートピア、水車野園でお別れ会を兼ねた交流会を実施しました。ご利用者や講師などたくさんの方に参加していただき、これまでの活動の振り返りを行いました。

目標③ 一人ひとりの良さに気づくことから始める人づくり ～高めあい 育ちあい 和気あいあい～

1. 地域住民や市内の地域福祉活動を担う方々が集い、共に学び高め合う場づくり<総務課>

地域の福祉活動、市民活動、ボランティア活動などに携わる人が集い、より一層地域福祉の機運を高め、「共に安心して暮らせる福祉のまちづくり」の実現を目指し、東近江市社会福祉大会を実施しました。

また社会福祉の増進・向上に多大な貢献をされた個人・団体等を表彰し、その功績を称えるとともに、多額の浄財を寄付、または募金いただいた個人・企業・団体等に対しては感謝状の贈呈を行い、地域貢献に対する意識の啓発に努めました。

◎被表彰者選考委員会 8月30日(金)

◎東近江市社会福祉大会の開催

日 時：令和元年10月19日(土) 10:00～

場 所：東近江市立蒲生コミュニティセンター

参加者：約400名

<式典>

- | | |
|-----------------|---------------|
| ・東近江市共同募金委員会長感謝 | 19件(1名・18団体) |
| ・東近江市社協会長表彰 | 54件(54名) |
| ・東近江市社協会長感謝 | 24件(14名・10団体) |



社会福祉大会の様子

・募金百貨店プロジェクト合同調印式



募金百貨店プロジェクト募金贈呈式



募金百貨店プロジェクト合同調印式の様子

2. 福祉共育の推進＜地域福祉課＞

地域のよいところを発見したり課題について考えるなど、福祉や地域づくりについて学ぶ機会をつくり、子どもから大人まで地域に暮らす住民同士が共に育ち合う福祉共育をすすめました。

◎福祉共育

学校・自治会等：のべ95ヶ所（平成30年度：96ヶ所）

相談・問い合わせ・コーディネート：181件（平成30年度：160件）



能登川西小
点字学習



箕作小
車いす体験



愛東地区鯉江町
シニア体験

◎福祉共育プログラム検討会議 3回

各課を超えて社協内でプロジェクト会議を開催し、住民が地域の課題、個人の困り事を我が事として捉え、誰も排除しない地域づくり、孤立させない地域づくりをすすめる社会的包摂、地域共生の視点を入れ、これまでの社協が提示してきた福祉共育プログラムの見直しや新たなプログラムの開発などを検討しました。

日時	内容	人数
令和元年 11月 18日（月） 9：30～11：30	社協として市民へ何を伝えたいか・何を発信したいか	8人
令和元年 12月 18日（水） 9：30～11：30	市民へ伝えたいこと、発信したいことについてのどのような内容（学習）で伝えるか	9人
令和2年 2月 7日（金） 9：30～11：30	市民へ伝えたいこと、発信したいことのポイントの整理・具体的学習内容について	9人

◎社会福祉士現場実習の受け入れ

学校・学部・学年名	コーディネート内容
龍谷大学 社会学部 現代福祉学科 3 回生 (受け入れ人数：2 人)	相談対応・事前訪問・実習対応・日程調整 打合せ・オリエンテーション・実習計画作成 実習受け入れ
びわこ学院大学 3 回生 (受け入れ人数：4 人)	相談対応・事前訪問・実習対応・日程調整 打合せ・オリエンテーション・実習計画作成 実習受け入れ
中部学院大学通信教育部 4 回生 (受け入れ人数：1 人) 中部学院大学 3 回生 (受け入れ人数：1 人)	相談対応・調整・内諾書提出
大谷大学	R2 年度の実習受け入れ相談

3. 住民懇談会の開催＜地域福祉課＞

自治会や地区など、自分の暮らす地域について語り合い、これからの地域づくりをカタチにしていくための場を、地区社協などと協働して開催しました。

また、多分野の人や団体、福祉事業所などにも参加いただき、地域で活動されている住民が話し合うことを通して、互いがつながり合うきっかけになりました。

地区	事業・内容	対象	人数
平田	平田ふくしのまちプラン実行委員会	平田ふくしのまちプラン実行部 (各種団体、自治会、専門職)	31 人
永源寺	交流会「輪つなぎ」(企画会議主催)	地区住民、医療福祉専門職	64 人
五個荘	自治会福祉推進連絡会(地区社協共催)	自治会長、福祉委員、民生委員・児童委員、地区社協理事	89 人
	サロン交流会(地区社協共催)	サロンスタッフ、地区社協理事 施設職員	74 人
	福祉委員研修会(年 2 回) (地区社協主催)	自治会長、福祉委員、民生委員・児童委員、地区社協理事	128 人
愛東	福祉委員会座談会(地区社協主催)	福祉委員、地区社協	40 人
湖東	福祉懇談会(地区社協共催)	自治会長、福祉推進委員、民生委員・児童委員	102 人
能登川	学区別福祉懇談会	自治会長、民生委員・児童委員、のどがわ福祉の会評議員	207 人
	ちょっと寄りまいか(推進会議主催)	住民、医療福祉専門職 くらしに関わる事業者	33 人
蒲生	福祉のまちづくり懇談会(年 2 回) (地区社協共催)	福祉委員、民生委員・児童委員、 蒲生あかね福祉の会役員	115 人



【永源寺地区】交流会「輪つなぎ」



【能登川地区】ちょっと寄りまいか

4. 中学生懇談会の開催<地域福祉課>

子どもたちがまちづくりについて話し合う場をつくり、近い将来を担う中学生らの意見を反映した地域福祉活動を展開し、大人になっても住み続けたいまちづくりにつなげました。

地区	事業・内容	対象	人数
平田市	船岡中学校 中学生懇談会	船岡中学校生徒会、平田ふくしのまちプラン推進会議メンバー、市辺推進会議メンバー	29人

5. 米寿記念写真展<地域福祉課>

長寿を祝い、年長者を敬う心を育むことを目的に、米寿を迎えられた人の写真を撮影、掲額しました。

◎撮影・掲額・贈呈

126名（平成30年度 123名）

平田／7名	市辺／10名	玉緒／8名	御園／6名
建部／4名	中野／9名	八日市／9名	南部／6名
永源寺／13名	五個荘／7名	愛東／8名	湖東／12名
能登川／20名	蒲生／5名		

目標④ みんなが輝く場や機会づくり ～『得意』『好き』を持ち寄って 東近江 115,000 笑ット～

1. ボランティア活動の支援<地域福祉課>

住民が気軽にボランティア活動へ参加できる取り組みを進めるとともに、その活動を支援しました。

- ・ボランティア活動への参加促進と活動支援
- ・ボランティアの活動調整と活動支援
- ・ボランティア情報の収集と発信
- ・ボランティアグループへの活動助成（赤い羽根共同募金）

35グループ 628,400円

- ・企業との連携社会貢献活動の推進

【ボランティア登録・把握数】

	団体				個人	
	登録グループ	人数	把握グループ	人数	個人登録	個人把握
八日市	40	547	7	30	2	3
永源寺	6	98	0	0	0	1
五個荘	9	116	0	0	9	0
愛東	10	187	0	0	0	0
湖東	9	86	0	0	1	1
能登川	24	229	3	20	0	0
蒲生	14	180	1	4	0	1
	112	1,443	11	54	12	5

【ボランティア保険加入数】

	活動保険				行事保険	
	件数	内 天災	人数	内 天災	件数	人数
八日市	101	11	1503	130	80	7,150
永源寺	7	0	58	0	3	122
五個荘	14	0	154	27	23	1,792
愛東	12	0	330	0	1	20
湖東	15	2	250	28	6	390
能登川	55	1	856	0	23	2,035
蒲生	16	0	286	0	4	582
	220	15	3,437	185	140	12,091

【ボランティア相談・問い合わせ件数】

地区	件数	地区	件数
平田	11件	永源寺	13件
市辺	22件	五個荘	137件
玉緒	16件	愛東	75件
御園	18件	湖東	67件
建部	9件	能登川	111件
中野	60件	蒲生	89件
八日市	19件	市	30件
南部	18件		
		合計	695件

【内訳】

①ボランティアをしたい(新規活動希望)

	件数
個人	46
ボランティアグループ	6
合計	52

②ボランティアしてほしい(依頼)

演芸、話し相手、移送など

	件数
個人	59
ボランティアグループ	11
自治会	178
サロン	206
施設	80
学校	6
団体	35
行政	6
その他	17
合計	598

③ボランティア活動に関する相談

(現在、活動中の内容や保険について)

	件数
個人	12
ボランティアグループ	58
自治会	6
サロン	20
施設	1
学校	0
団体	33
行政	4
その他	6
合計	140

2. ボランティアセンターの運営＜地域福祉課＞

ボランティア活動の活性化やボランティアの裾野が広がるよう、地域住民や企業・団体・関係機関等とともに住民参画・協働により推進していく活動を支援しました。

◎東近江市のボランティア推進を考える会 3回

東近江市のボランティア活動の裾野が広がるよう、ボランティアや地域住民、企業、学校、関係団体等とともに情報交換・協議できる場として開催しました。

日 時	内 容	人数
令和元年7月12日(金) 13:30~15:30	・地域共生社会のまちづくりにおけるボランティア推進のイメージ共有 ・ボランティア川柳・フローチャート取り組み状況 ・グループ懇談 「活動者同士の交流の場づくり」案出し ・ボランティア川柳・フローチャートPR活動ふりかえり	14人
令和元年11月11日(月) 13:30~15:30	・グループ懇談 「ボランティアのことを発信していくには」案出し	12人
令和2年2月13日(木) 13:30~15:30	・ボランティア川柳プロジェクトの報告 ・令和元年度のボランティア推進の報告 ・グループ懇談 「令和2年度のボランティア推進に向けて」	9人

◎ボランティア推進を考える会 プロジェクト進捗状況

考える会を通して、ボランティアのハードルが高いことが課題として挙げられた。そのため、ボランティアの魅力や楽しさを発信し、ボランティアのイメージを変える・ハードルを下げる具体策として2つのプロジェクトに分かれ企画・実行した。

○ボランティア川柳&パワーワードチーム

ボランティア川柳の募集要項や応募用紙を完成させ、10/19~12/20に本募集を行いました。さらに、集まった川柳を幅広い方に発信・啓発していくための方法について検討しました。

公共機関をはじめ、市内で設置を開始しました。

地域福祉フォーラム、わくわくコラボ村でのPR活動と作品募集をしました。(作品募集数 250点)

回	日時	人数	内容
第6回	4月22日 13:30~ 15:30	6名	ボランティア川柳募集要項の検討。今年度のスケジュール確認。
第7回	6月13日 13:30~ 15:30	5名	ボランティア川柳の募集要項の確認と本募集に向けて
第8回	1月28日 13:30~ 15:30	4名	入選作品の選定について、作品を活用した啓発活動について

○ボラなび（フローチャート）チーム

日常の場所で、気軽に楽しみながらボランティアに触れてもらい、ボランティアをはじめてみたい！と思ってもらうきっかけづくりとしてフローチャートを作成。

公共機関をはじめ、市内で設置を開始。

地域福祉フォーラム、わくわくコラボ村でのPR活動

<成果>

地域共生のまちづくりに向けて、考える会メンバーと一体となってボランティアを推進することができました。

ボランティア川柳・パワーワード、フローチャートの取り組みを通して、市内にボランティアの魅力を発信することができました。また、取り組みへの協力を求めることで新しい人財が広がりました。



◎移送ボランティア輪和の活動支援 月1回 相談対応・活動調整 他

高齢者や障がいのある方を対象とした、ボランティアによる移送活動を支援しました。

- ・対象者 14名
- ・定例会 12回(月1回開催)

3. 子どもへの学習支援<地域福祉課>

貧困の連鎖を断ち切るために、生活困窮世帯の中学・高校生へ、安心して過ごせる居場所の提供や季節行事等で学力や生活体験、社会性を身に着けること等を一体的に実施してきました。

参加が続かない・状況が気になる子どもや世帯へは、電話や個別訪問を行い、状況の把握と参加の声掛け、必要に応じて関係機関につなぎ、支援を進めてきました。

さらに、今年度から高校生とその保護者と三者で、その子にとっての学習支援に参加する意義や、進学・就労を見据えた目標設定、支援方針を検討する機会として三者面談を行いました。

・関係機関との検討会議	2回 (5/22、2/26)
・大学生ボランティアスタッフミーティング	4回 (8/7、9/27、11/11、1/20)
・関係機関とのケース共有会議への出席	6回
・今年度新しく参加につながったケース	13件

◎会場参加状況 () 内、平成 30 年度

会場	対象中学生・高校生		学生ボランティア		開催回数
	登録数	延べ人数	登録数	延べ人数	
八日市	21(24) 人	530(332) 人	9(9) 人	111(129) 人	44(47) 回
五個荘	7(5) 人	136(84) 人	2(2) 人	28(31) 人	42(49) 回
南部	20(14) 人	350(208) 人	6(5) 人	37(32) 人	44(40) 回
冬休み 特別講座		52(45) 人		10(10) 人	5(5) 回

◎会場合同行事

内容	日程	中高生	学生ボランティア
お金についてみんなで考えよう&バーベキュー	9月29日(日)	13人	4人



お金についてみんなで考えよう&バーベキューの様子

<成果と課題>

- ・子どもたち一人ひとりの努力を応援しながら、問題が解けるという自信をつけ、自身の学力よりも上の高校に挑戦するなど自分たちで目標を持って取り組むことができた。受験生全員が最後まで受験に取り組み合格でき、本人の自信につながりました。
- ・欠席の連絡があった時や欠席が続く子どもの様子を電話などで確認する時、また高校生との三者懇談等での保護者との話し合いを大切にし、相談してもらえる関係性ができ、世帯に関わる支援者へのつながりができました。また、世帯の困りごとの解決が図ることができました。(進学費用が不足していることから、本会の教育支援資金につながりました。)
- ・参加が続かない子どもが、なぜ参加しないのか、理由や背景を明らかにして、その子にとって必要な支援が何かを関係機関と検討していけるようケース共有会議のあり方の見直しを行いました。
- ・外国籍の子どもたちについては、言葉の壁で進学や就労へのモチベーションが下がり、自尊心が低くなることが見えてきました。言葉の壁を解消する支援や成功体験の積み重ねができる支援が求められており、学習支援以外の資源ともつながり合い、その支援を進めていく必要があります。

4. 障がい児サマーホリデー事業の実施<地域福祉課>

夏休み期間中、障がいを持つ子どもたちが集い、遊びを通じた地域の人とのふれ合いの場を保護者・ボランティア・行政と協働して実施しました。

◎ 6会場（実施日数 89日）

会場	参加児童		ボランティア	日数
	登録	のべ参加	のべ参加	
八日市	34人	180人	267人	15日
永源寺	5人	37人	52人	15日
五個荘	16人	90人	123人	15日
愛東・湖東	8人	64人	123人	14日
能登川	16人	120人	161人	15日
蒲生	10人	71人	147人	15日
計	89人	562人	873人	89日 (平成30年度 89日)

参加登録児童 89名（平成30年度 92名）
 参加者のべ 562名（平成30年度 577名）
 ボランティアのべ 873名（平成30年度 817名）

サマーの会打合せ会議 4回
 指導員リーダー会議打合せ会議 6回
 指導員研修会 2回
 指導員・サマーの会合同会議 会場ごとに開催



活動写真



大きな作品展

5. 当事者がお互いにつながる場づくりの支援<地域福祉課>

地区名	組織・団体	内容
市	ほっとサロンひなた	相談対応等
	シニアグループ 五友会	相談対応等
八日市 8地区	スプリングホリデー(5日) ※コロナウイルス感染拡大防止のため中止	申込・受付、事業運営・相談 支援
建部	子育てサークルこのみくらぶ	移動おもちゃ図書館
南部	ソキウス(シニア世代の仲間づくり)	企画相談対応
	子育てサークルなんぶっ子	移動おもちゃ図書館
五個荘	あしあとの会	障がい児親子サロン 参加ボランティアの調整

6. シニア世代の仲間づくり講座の開催<地域福祉課>

シニア世代へ仲間づくりのきっかけとなる場を提供し、地域の活動等に関心を持てる機会をつくりました。

全5回 参加者：8名(延：10名)

(平成30年度 参加者：16名(延：65名))

回数	日時	内容	人数
1	2月19日(水)	・自己紹介 ・ニュースポーツ	7人
2	2月26日(水)	・うどん打ち	3人

※ハートピアで実施。2回目のみ蒲生コミセン

3回目以降、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止



7. 児童センターの運営<福祉センター>

乳幼児の親子から小中高校生まで、幅広い年齢の子どもたちが遊べる環境を整え、遊びの場を提供し、遊びの指導を行い、仲間づくりや健やかに育ちあう安心安全な居場所づくりを行いました。またおもちゃの貸出等を通して子育てを支援し各種相談にも応じました。

事業名	開催回数・件数	参加者延人数	
遊びを通した日常的なかかわりの中での児童や保護者からの相談	59件(80件)	—	
自由来館（遊びの提供、遊びの指導）	—	8,718名(10,599名)	
夏休みクラブ活動	おりがみ教室	2回(2回)	59名(79名)
	(新規)陶芸教室	1回	19名
	サイエンスクラブ	2回(1回)	49名(24名)
(新規)夏休み小学生こども居場所づくり	3回	82名	
児童センターだより発行	1回(1回)	—	
各地域へのおもちゃ貸出	25回(35回)	—	
おもちゃの貸出	84件(95件)	—	

() 内 30 年度

8. 母子・父子福祉センターの運営＜福祉センター＞

ひとり親家庭、寡婦の方の自立と生活の安定、向上を図るため、イベントや講座の開催を通じて、交流の場を提供し、困りごとや各種の相談にも応じました。

- 母子・父子および寡婦の家庭生活の自立と生活の安定を図る各種事業
- 母子福祉推進委員会、母子福祉のぞみ会の会議参加、事業協力
- 教室、イベント等の開催

事業名	開催回数・件数	参加者延人数
(新規)親子アウトドア体験 (バーベキュー・流しそうめん)	1回	22名
手芸教室	5回(5回)	45名(45名)
(新規)働くママのリフレッシュ講座	申込者なしのため中止	—
(新規)未来設計講座	新型コロナウイルス感染 拡大防止のため中止	—
教室、講座等のかかわりの中での相談	98件(101件)	—

() 内 30 年度

9. 老人福祉センターの運営＜福祉センター＞

高齢者の健康増進や教養の向上、生きがいがづくり、交流の場を提供するため、仲間づくりの場、居場所づくりとして講座を開催し、困りごとや各種の相談にも応じました。

事業名	開催回数	参加者延人数
自由来館（囲碁）	46回(47回)	367名(356名)
サークル活動の場所提供	96回(91回)	1,292名(1,334名)
陶芸教室	2回(3回)	8名(13名)
寄せ植え教室	1回(2回)	13名(22名)
手芸教室	2回(1回)	24名(8名)
(新規)健康体操教室	3回	21名

() 内 30 年度



児童センター 夏休み
こども居場所づくり



母子父子福祉センター
親子アウトドア体験



老人福祉センター
健康体操教室

10. S&S(スマイル アンド スタンド)＜相談支援課＞

就労や生活のしづらさを抱えておられる方や社会に出るきっかけをさがしておられる方に、居場所や社会参加の場を提供しました。様々な活動に、自分自身の判断で参加を決めていただき、自信をもち自分に合った働き方や他者との関係づくりが行えるよう支援しました。

*S&S 参加者実数 21人

活動状況 19回

プログラム	回数	延べ参加者数
ダイレクトメールの封入	4	19人
聖徳祭り準備・片付け	3	21人
共同募金資材準備	1	7人
福祉大会・地域福祉フォーラム準備	4	17人
二五八まつりエコステーション	1	7人
FoodDay25・準備	6	27人
合計	19	98人

*企業での活動 (ヴァリジエシムラ 箱折作業) 5人

参加者実数 5人 (通年 1人 半期 2人 短期 1人 体験 2人)

目標⑤ 東近江の魅力を再発見と誇りづくり ～やっぱりええやん 東近江～

1. 広報誌『ひがしおうみし社協だより』の発行・ホームページの運営

『場所や活動』、『風土や人』など、地域の福祉力や助け合いにつながる東近江のさまざまな魅力や情報を掲載し、ホームページでは常に新しい情報を発信していきましました。

広報誌名	発行回数／部数／配布方法		
ひがしおうみし社協だより	4回	31,800部	新聞折込、窓口設置、個別郵便

地域の人や活動等、身近な記事を掲載した広報誌の発行を行いました。また、タイムリーな情報を常に発信できるホームページの作成に取り組みました。

2. SNS(Facebook)を活用した情報収集・発信

Facebook を活用し、社協と市民、さまざまな団体や企業、幅広い年代層がそれぞれつながり、東近江の魅力や旬な話題を発信・共有する機会をつくりました。

月	件数	内容
4月	8件	商工会女性部より善意銀行への寄付／募金百貨店 PJT 協力企業の紹介／サマホリ指導員募集
5月	3件	赤い羽根自販機の設置／八日市はちの日カフェ／はまのサロン
6月	4件	永源寺図書館で政所茶飲めます／点字体験講座の案内／湖東地区防災 NW 全体会議の報告
7月	6件	サマホリV 募集／おたがいさん蒲生募集／連合滋賀からの寄付 など
8月	1件	サマホリ大きな作品の展示
9月	4件	船中懇談会の実施報告／成年後見相談会の案内／元サマホリ参加児童の個展の案内 など
10月	2件	地域福祉フォーラムの開催案内／がもうの祭り
11月	3件	サポーター養成講座の案内／農で活躍 PJTin 御園の開催案内／ボラ川、ボラなびの紹介
12月	9件	わくわくこらぼ村／FoodDay25 の案内／社協を語った不審電話の注意喚起 など
1月	5件	ニュースしぶ5時／郵便はがきで見守り募金／善意銀行お米の寄贈／ など
2月	2件	地区ボランティアセンター勉強会報告／あさひの DS
3月	7件	手作りボランティア「ニコニコグループ」紹介／かじやの里の新兵衛さん
	54件	

3. 地域のお宝の発見・発信＜地域福祉課＞

気軽に集まれるゆるい場(居場所)が人づくりや見守りにつながっていることに目を向け、趣味の活動や仲間同士の集まりなど、「地域のお宝」を発見し発信しました。さらに、そういった場が広がるよう「好きよりの場に光を！運動」としてPRしました。また、シニア世代・若者・子育て中の方など、さまざまな立場の人の活躍を発信し、さらに推進します。

- ◎ 「集いいね」の募集、掲額、表彰
- ◎ 「集いいね」の冊子作成

【「集いいね」登録数】

地区	31年度 登録件数	合計団体数
平田	3 団体	6 団体
市辺	1 団体	3 団体
玉緒	0 団体	7 団体
御園	1 団体	11 団体
建部	1 団体	5 団体
中野	6 団体	14 団体
八日市	0 団体	6 団体
南部	2 団体	3 団体
永源寺	1 団体	4 団体
五個荘	2 団体	8 団体
愛東	1 団体	3 団体
湖東	1 団体	7 団体
能登川	2 団体	8 団体
蒲生	3 団体	14 団体
市域	1 団体	5 団体
		104 団体

<成果>

集いの場の発見とその大事さが見える化する取り組みを進めたことで、集いの場の魅力や、人と人とのつながりづくりの大事さを発信することができました。この取り組みが第2層協議体へ拡がり、住民自身が自分たちの暮らしと今あるものを見つめ直し、宝物として活かしていく機運が高まりました。

目標⑥ 地域活動を支えるためのサポート

～とことん14地区にこだわり、地域づくりをすすめます！～

1. 地区の地域分析<地域福祉課>

地域の特性に応じた地域活動を支援するために、地区担当ワーカーが各地区の課題や資源、住民の想いやニーズを把握するなど、地域の特性を分析し、地区に応じたふくしのまちづくりをすすめました。

地区の状況を把握するために、「地区カルテ」を作成する検討を行いました。

2. 地区社会福祉協議会の活動支援と連携＜総務課・地域福祉課＞

地区の福祉向上を目的に設けられている地区社会福祉協議会の活動を支援しました。また、地区社会福祉協議会と連携協働し、住民により福祉活動が進展するよう、地区担当ワーカーが出向き、体制づくりや話し合いの場づくりをすすめました。

◎地区社協と連携と活動支援

地区名	事業・活動名	ワーカーの関り・内容
市	14 地区社協交流会	相談対応、資料準備、打合せ、参加
平田	事業：地区社協助成金、見守り支援	助成金相談対応 事業、運営相談対応
市辺	事業：地区社協助成金 給食ボランティア交流会 福祉協力員会議	助成金相談対応、当日参加協力
玉緒	会議：役員会	打合せ、事業相談対応
	事業：地区社協助成金	助成金相談対応
	玉緒地区文化祭、歳末たすけあい事業	当日参加協力
御園	会議：事務局会議、理事会、理事総会	打合せ、企画相談対応、資料準備
	研修：給食ボランティア研修会&講習会	打合せ、企画相談対応、資料準備、 講師調整
	事業：地区社協助成金、見守り支援、座談会「よりあい」、みその井戸端喫茶	助成金相談対応、打合せ、企画相談対応 スタッフ会議
	みその井戸端喫茶サロン交流会、秋まつり	打合せ、企画相談対応、資料準備 当日参加協力
建部	事業：サロン交流会、見守り支援	事業相談対応
中野	会議：常任理事会、理事会、総会、事務局会議、なかの福祉のまちづくり座談会	企画相談対応、活動調整、事前打合せ 企画相談対応、資料準備
	事業：見守り支援、地区社協助成金 広報「かけはし」発行、地区ボランティアセンター、なかのよいまち推進会議、おすそ分けのしくみづくり	助成金相談対応、事業相談対応
	サロンボランティア喫茶	相談対応、資料準備
	見守り支援事業検討会	相談対応、資料準備
八日市	会議：常任理事会、四役会、総会、広報委員会、事務局打合せ	事業相談対応
	事業：見守り支援、地区社協助成金	助成金相談対応
	ひとり暮らし高齢者のつどい	運営支援
南部	会議：総会、常任理事会	事業相談対応
	事業：地区社協助成、こども広場、見守り支援、障がい者の福祉を高めるつどい	事業相談対応、助成金相談対応
	研修：役員研修	視察先調整、対応

永源寺	会議：総会、常任理事会、三役・事務局会議 各部会(事業企画、見守り、広報編集、えんがわ喫茶)	事業相談対応
	事業：えんがわ喫茶、地区社協助成金 広報発行	助成金相談対応、事業相談対応 広報校正
	地域を知ろう、みんなのふる里祭り、歳末おせち・ゆうあい訪問 居場所づくり交流会(コロナウイルス感染拡大防止のため中止)	事業相談対応、資料作成、運営相談対応
五個荘	会議：理事会、事務局会議、部会(総務、事業)、てんびんの里「わくわく広場」運営委員会	事業相談対応、資料作成
	事業：地区社協助成金	助成金相談対応
	研修：理事研修、福祉委員研修会、サロン交流会	事業相談対応、資料準備、講師打合せ
	てんびんの里わくわく広場、福祉人権のつどい、自治会福祉推進連絡会	事業相談対応、話題提供
愛東	会議：理事会、総会、監査、三役部会長会議 組織体制検討会議、部会(広報企画、福祉委員会、地域福祉推進)	事前相談対応、資料準備
	事業：地区社協助成金、広報発行	事前相談対応、資料準備、原稿作成・校正、広報誌配布準備
	秋まつりバザー出店	事業相談対応、資料準備、開催準備
湖東	会議：理事会、事業推進担当会議	事業相談対応、資料準備
	事業：季節のお届けサービス、広報発行 歳末おせち配食サービス	事業相談対応
能登川	会議：理事会、評議員会、各部会(総務会計 広報、研修、事業企画)	事業相談対応
	事業：地区社協助成金事業、料理講座、子ども芸術展での啓発活動、広報発行 75歳以上一人暮らし高齢者への年賀状送付 福祉と防災のまちづくり講演会	事業相談対応、当日参加協力 広報情報提供、まち協との調整、講師調整
	研修：役員研修	当日参加協力
蒲生	会議：本部役員会、役員会、総会、拠り所創造事業説明会、代表者会議	事業相談対応
	事業：地区住民福祉計画推進、広報発行 中学生懇談会	事業相談対応、 広報情報提供
	福祉のまちづくり講座、あかねふれ愛のつどい、福祉と健康のつどい、歳末お楽しみ会 身障厚生会との交流、生活支援サポーター懇談会、わいがや支え合い蒲生	事業相談対応、資料準備準備 当日参加協力

○地区社協の活動への助成

各地区の地域性に合わせた活動となるよう地区社協の活動を支援しました。

・地区社協への運営費・事務局設置費助成			
会費による事務局助成	10 地区		1,695,800 円
会費による運営助成	14 地区		581,899 円
・地区社協への事業費助成			
赤い羽根共同募金による助成	9 地区		432,500 円
歳末たすけあい募金による助成	9 地区		270,200 円
善意銀行による助成	10 地区		476,100 円

3. 地区社会福祉協議会 交流会の開催<地域福祉課>

地区社会福祉協議会が交流し、お互いの活動や思い、悩みを共有しながら「地区社協の役割や地区社協だからこそできる地域づくり」について考える機会を設けました。

◎14 地区社会福祉協議会交流会 1 回 / 参加者：35 名

日 時 令和 2 年 1 月 21 日 (火) 14 : 00 ~ 16 : 00

場 所 東近江市福祉センターハートピア

参加者 各地区社会福祉協議会 会長・副会長・役員・事務局など

内 容 主 旨 説 明 「今、東近江市で進んでいる福祉のまちづくり」

東近江市社会福祉協議会

講 演 「今、地区社協に求められている役割や機能」

講師 武庫川女子大学 教授 松端克文 氏

グループ懇談「地区社協の活動と地域づくり」

<成果>

14 地区社協会長、役員、事務局同士で各地区社協が実施されている活動の目的や意味を話し合うことで、福祉のまちづくりにおける地区社協の役割や意義を考えることができ、これからの地区社協活動の後押しとなりました。

4. 地区社会福祉協議会パワーアッププロジェクト<地域福祉課>

各地区において、地域福祉推進の中心になり、大事な役割を担っていただいている地区社協の役割、機能を明確にし、ともに地域福祉推進をすすめていくため、地区社協の役割や組織体制を地区社協の皆さんと考えていくプロジェクトを立ち上げました。

◎第 1 回地区社会福祉協議会パワーアッププロジェクト / 参加者：24 名

日 時 令和 2 年 2 月 27 日 (木) 14 : 00 ~ 16 : 00

場 所 東近江市社会福祉協議会蒲生事務所せせらぎ

参加者 各地区社会福祉協議会から 1 ~ 2 名選出

内 容 主 旨 説 明 「地区社協パワーアッププロジェクトについて」

東近江市社会福祉協議会

講 演 「地区社協と市社協の関係・地区社協の必要性」

講師 武庫川女子大学 教授 松端克文 氏

話 題 提 供「東近江市の福祉のまちづくりと
 地区社協の役割について」
 東近江市社会福祉協議会
 グループ懇談「地区社協の役割について」

<成果>

「地区社協の役割」について、市社協と地区社協ともに共通認識を持つことができました。組織体制について課題に感じている地区が多く、立て直していきたいという思いをもっておられ、これまで、地区それぞれの状況に応じた関わりをしてきましたが、市全体で地区社協のことを検討するきっかけとなりました。



5. 民生委員児童委員協議会との連携<地域福祉課>

住民に最も身近な支援者である民生委員・児童委員との連携により、困りごとを抱える方の発見や地域生活を支える支援、また地域ぐるみでの見守りや助け合いの活動などをすすめました。

地区名	事業・活動名	ワーカーの関り・内容
市域	事務局担当 理事会・三役会 湖南市民児協視察研修受入れ 会長・副会長県外研修、情報交換会 各部会：障がい児者、高齢、児童 委員会：総務、広報、主任児童委員 活動の目安と考え方Q & A検討委員会	会議運営、事業・運営・研修先調整相談対応、 定例会資料準備、当日参加協力、 他事務局業務
平田	父子給食、県外研修	事業・運営相談対応、研修同行
玉緒	県外研修 にこにこ赤ちゃん訪問同窓会	研修先調整対応・同行 事業・運営相談対応
御園	みそのちびっこ	事業・運営相談対応、当日参加協力
建部	県外研修	研修先調整、同行
中野	児童虐待に関する研修会、県内研修 ママさんおしゃべり会、広報紙	事業・運営相談対応、 研修調整対応、当日参加協力
八日市	視察研修	事業相談対応、研修調整対応・同行
南部	県外研修、県内研修	研修先調整対応・同行
永源寺	県外研修、幼保・小中学校訪問、 市内福祉施設見学、 ゆうあいの家奉仕作業	事業・運営相談対応、 研修調整対応・同行、当日参加協力

五個荘	あしあとの会との懇談会	懇談会日程調整、当日参加協力
愛東	県外研修	研修調整対応・同行、当日参加協力
湖東	県外研修、県内研修	研修調整対応・同行、当日参加協力
能登川	県外研修	研修先調整、同行
蒲生	視察研修、歳末お楽しみ会、 ほっとタイム	研修先調整対応・同行、資料準備、 事業・運営相談対応、
各地区	定例会 特別会費、共同募金協力依頼 歳末激励金配布助成金事業協力 台風 21 号被害状況確認	会議準備・出席、相談対応、赤ちゃんにここ こ訪問事業など)、事前会議・代議員会、被害 状況確認・現場確認

6. まちづくり協議会との連携＜地域福祉課＞

各地区で広くまちづくりに取り組まれているまちづくり協議会と連携し、地区社会福祉協議会をはじめとする地区内の関係団体とヨコのつながりをつくり、福祉のまちづくりをすすめました。

地区	事業・活動名	ワーカーの関り・内容
平田	まちづくり協議会	事業・運営相談対応
御園	推進会議との合同会議	企画相談対応
中野	おすそわけプロジェクト	相談対応、資料準備、当日参加協力
	子どもの居場所づくりプロジェクト	相談対応、当日参加協力
	広報「みんなでつくるなかのよいまち」	取材、記事案作成
八日市	八日市つながりプロジェクト	事業・運営相談対応、 助成金説明
永源寺	みんなのふるさと祭り ふるさと便プロジェクト	当日参加協力、相談対応
五個荘	五個荘地区総合防災訓練	相談対応、訓練参加
愛東	愛東地区まちづくり協議会 福祉プロジェクト	企画相談対応、資料作成、会議参加
湖東	福祉部会、湖東の支え合いを考えるプロジェクト	事業・運営相談対応
能登川	福祉と防災のまちづくり講演会	福祉の会との調整、相談対応
蒲生	蒲生まるごとおたすけ隊(人財バンク) 打合せ	打合せ参加、事業・運営相談対応

7. 「地区住民福祉活動計画」の推進支援＜地域福祉課＞

地区担当ワーカーが市内 14 地区で地区住民福祉活動計画の推進のために設けられている、話し合いの場などへの参画を通し、計画が具体的な活動として取り組まれるよう支援しました。

地区名	事業・活動名	ワーカーの関り・内容
市	ひがしおうみし 福祉のまちづくり会議	企画、調整、打合せ、資料準備、開催
平田	平田ふくしのまちプラン推進会議	運営等相談対応、資料準備、会議参加、打合せ
	カフェゆきのやまとふれあい広場	運営等相談対応
市辺	市辺地区住民福祉活動計画推進会議	運営等相談対応、資料準備、打合せ、会議参加
	よってみて Cafe こぼし	運営等相談対応、資料準備、会議参加
	障がいのある子をもつ保護者との 交流会	事業の企画・実施、資料準備、広報
玉緒	玉緒地区住民福祉活動計画推進会議	運営等相談対応、資料準備、打合せ、会議参加
御園	御園地区住民福祉推進会議	運営等相談対応、資料準備、打合せ、会議参加
建部	たてべの福祉を語る場	運営等相談対応、資料準備、会議参加
中野	なかのよいまち推進会議	運営等相談対応、資料準備、活動調整、会議参加
	おすそわけプロジェクト	運営等相談対応、資料準備、活動調整、会議参加 もろて～な市開催支援
	もろて～な市	運営等相談対応、資料準備、打合せ、会議参加
	集いの場の発見発信	運営等相談対応、資料準備、打合せ、会議参加
	なかのよいまち大 en 会	運営等相談対応、資料準備、打合せ、会議参加
八日市	八日市つながりプロジェクト	運営等相談対応、資料準備、活動調整、会議参加
	はちのひカフェ	運営等相談対応、資料準備、カフェ参加
	サマフェス	運営等相談対応、資料準備、活動調整、参加
	イザフェス	運営等相談対応、資料準備、活動調整、参加
南部	南部地区ワーキング会議	運営等相談対応、資料準備、会議参加
	ほっとまちカフェ	運営等相談対応、資料準備、会議参加
永源寺	住めば都プラン推進会議	運営等相談対応、資料準備、会議参加
	婚活プロジェクト	運営等相談対応、資料準備、打合せ、会議参加 反省会
	ふるさと便プロジェクト	運営等相談対応、資料準備、打合せ、会議参加
五個荘	第2次五個荘地区住民福祉活動計画 推進会議	運営等相談対応、資料準備、打合せ、会議参加
愛東	愛東まちづくり協議会 福祉プロジェクト	運営等相談対応、資料準備、活動調整、会議参加
	命のバトン推進委員会	運営等相談対応、資料準備、活動調整、会議参加
湖東	湖東プラン推進会議	資料準備、会議参加
能登川	能登川地区住民福祉活動計画推進 会議	運営等相談対応、資料準備、会議メンバーの依 頼・調整、会議参加
蒲生	あかね福祉の会本部役員会	運営等相談対応



平田ふくしのまちプラン
実行委員会



よってみて Café こぼし



はちのひカフェ

8. 「第2次地域福祉活動計画」のふりかえり<地域福祉課>

福祉のまちづくり会議を開催し、策定委員、推進会議のメンバーなど住民とのふりかえりの場とする予定だったが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、地区担当ワーカーのみでふりかえりを行いました。第2次地域福祉活動計画の進捗状況と地域福祉課地区担当ワーカーがどのように地域に働きかけどのように地域が変化してきたかを確認しました。

◎第2次地域福祉活動計画の成果を出す

日 時 令和2年3月16日(月) 14:00~16:00

内 容 地区担当ワーカーとして、地域に働きかけてきたことを掘り下げ、
地域の変化を見る

アドバイザー 武庫川女子大学 文学部 心理・社会福祉学科
教授 松端 克文氏

<成果>

地域づくりにおいて、令和元年度にワーカーとして、地区で積み重ねてきた働きかけをふりかえることで、地域の変化(成果)を見出し、来年度以降、どのように地域に働きかけていくか方向性を見出すことができました。

9. 専門職同士の連携強化<地域福祉課>

医療福祉の専門職が集い、制度やサービスのはざまにある暮らしの困りごとの解決や地域に必要な社会資源などについて話し合う場に参画し、今後の連携強化を行いました。

また、医療福祉の専門職がお互いの専門性を活かし、地域に対してできることを考えるきっかけをつくりました。

地区名	事業・活動名	ワーカーの関り・内容
永源寺	チーム永源寺	会議出席
	輪つなぎ 企画会議	資料作成、打合せ、会議参加
五個荘	てんびん倶楽部	会議進行補助、事業・運営相談対応、会議出席、日程調整

基盤強化計画

1. 民間法人として、独自性に採算性を兼ね併せた法人経営を目指します

＜総務課＞

- (1) 経営組織のガバナンスを強化し、役職員が一体となって転換を図るとともに各検討委員会を開催し、組織経営改善に向けた答申をまとめました。

〈正副会長会議の開催(三役会)〉

	期日	審議事項
第1回三役会	令和元年6月4日	理事会・評議員会提案事項について
第2回三役会	令和元年9月5日	理事会・評議員会提案事項について
第3回三役会	令和元年12月3日	理事会・評議員会提案事項について
第4回三役会	令和2年3月3日	理事会・評議員会提案事項について

〈理事会、評議員会、監事会の開催〉

	期日	審議事項
第1回理事会	令和元年6月10日	《議事》 ・平成30年度事業報告について ・平成30年度一般会計収支決算について ・定款の一部変更について ・経理規程の一部改正について ・理事・監事任期満了に伴う新理事・監事の推薦について ・評議員選任・解任委員の一部辞任に伴う新委員選任について ・評議員選任・解任委員会運営細則の一部改正について ・第1回評議員会の招集ならびに提案事項について 《報告事項》 ・平成31年度一般会計補正予算(第1号)の専決処分について
第2回理事会	令和元年6月28日	《議事》 ・会長・副会長および常務理事の選定について
第3回理事会	令和元年9月10日	《議事》 ・令和元年度一般会計補正予算(第2号)について ・第三者委員の委嘱に関し理事会の同意を求めることについて ・職員就業規則の一部改正について ・非常勤職員就業規則の一部改正について ・職員の育児・介護休業及び育児・介護短時間勤務に関する規則の一部改正について ・第2回評議員会の招集並びに提案事項について 《報告事項》 ・事業実施状況報告について(4~7月) ・法人指導監査の報告について

第4回 理事会	令和元年 12月9日	<p>《議事》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和元年度一般会計補正予算(第3号)について ・経理規程の一部改正について ・第3回評議員会の招集並びに提案事項について <p>《報告》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業実施状況報告について(8~9月)
第5回 理事会	令和2年 3月10日	<p>《議事》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和元年度一般会計補正予算(第4号)について ・定款の一部変更について ・経理規程の一部改正について ・会員規程の一部改正について ・事務局及び職員に関する規程の一部改正について ・給与規程の一部改正について ・職員就業規則の一部改正について ・非常勤職員就業規則の一部改正について ・令和2年度事業計画について ・令和2年度一般会計予算について ・理事辞任による新理事候補者の推薦について ・第4回評議員会の招集並びに提案事項について
第1回 評議員会	令和元年 6月27日	<p>《議事》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成30年度事業報告について ・平成30年度一般会計決算について ・東近江市社会福祉協議会定款の一部変更について ・理事・監事任期満了に伴う新理事・監事の選任について <p>《報告事項》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成31年度一般会計補正予算(第1号)の専決処分について ・経理規程の一部改正について ・評議員選任・解任委員の一部辞任に伴う新委員選任について ・評議員選任・解任委員会運営細則の一部改正について
第2回 評議員会	令和元年 9月18日	<p>《議事》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和元年度一般会計補正予算(第2号)について <p>《報告》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業実施状況報告について(4~7月) ・第三者委員の選任について
第3回 評議員会	令和元年 12月24日	<p>《議事》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和元年度一般会計補正予算(第3号)について <p>《報告事項》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業実施状況報告について(8~9月)

第4回 評議員会	令和2年 3月27日 ※新型コロナウイルス 感染症拡大 防止の為、 決議の省略	《議事》 ・令和元年度一般会計補正予算(第4号)について ・定款の一部変更について ・会員規程の一部改正について ・令和2年度事業計画について ・令和2年度一般会計予算について ・理事退任による新理事の選任について
第1回 監事会	令和元年 5月28日	平成30年度事業・決算監査
第2回 監事会	令和元年 8月27日	令和元年4月～6月事業・会計監査
第3回 監事会	令和元年 11月27日	令和元年7月～9月事業・会計監査
第4回 監事会	令和2年 2月25日	令和元年10月～12月会計監査
法人指導 監査(市)	令和元年 8月27日	法人運営・事業・会計監査(1年度分)

(2) 事業運営の透明性の向上を図りました。

財務諸表や現況報告書、県や市の補助金等の情報開示を行い、社協会費や共同募金についても、社会福祉法人の財務諸表電子開示システム(ワムネット)や、本会のホームページ、広報誌による情報公開を行いました。

(3) 財務規律を強化しました。

社会福祉法人の会計基準に則り、適正かつ公正な支出管理を実施。

また各答申に基づき、経営の安定と財政の適正化を具現化すべく検討を行いました。

(4) 会費や募金が減少していく中、今後ますます重要となる地域福祉活動の自主財源の確保と有効活用に向けて検討し、6月に答申をいただきました。

①市社協会費・共募検討委員会の開催

検討委員会により会費と共同募金の集め方、使い方について、市民の皆様が納得してご協力いただけるよう検討を行い、6月に答申をいただきました。会費については、法人や企業を対象にした賛助会員を新たに設け、会費・共募ともに振込による納入の依頼に令和2年度から変更していきます。会費・共募を財源とした助成要綱については、今後も引き続き検討を進めます。

②市社協会費の活用の検討

社協会員の新規加入を積極的に促進し自主財源の確保に努めました。また活用についても時代に即応した事業への透明性のある適正な活用を行いました。

	平成30年度	令和元年度
一般会費	11,713,316円	11,646,513円
特別会費	2,857,000円(1,683件)	2,909,378円(1,638件)

③共同募金助成金の有効活用

赤い羽根共同募金運動の一層の推進により地域福祉財源の確保に努めるとともに、各団体への助成事業については、共同募金道の趣旨に合った助成事業に転換し、その助成が適正かについて審査委員会による審査を行いました。

④善意銀行の有効な活用

市民の善意で寄せられる寄付金・物品について、寄付者と受給者のマッチングを図り、柔軟かつ効果的な循環型活用を目指しました。

(5)「第三者委員会」の活性化

市民や利用者に第三者委員会の一層の周知を行い、苦情解決や虐待防止に努め、事業改善に向け法人として対応を行いました。

開かれた第三者委員会として、法人運営全体の委員会運営となるよう活性化を図りました。また3名の委員が新たに交代されました。

・第三者委員会の開催

	期日	内容
第1回 第三者委員会	令和元年 9月30日	平成31年2月1日～令和元年8月31日 苦情(9件)・事故報告(37件)
第2回 第三者委員会	令和2年 3月2日	令和元年9月1日～令和2年1月31日 苦情(4件)・事故報告(33件)

(6) 日常業務の円滑な実施のため課長会議ならびに主幹会議を定期開催し、情報の共有化を図ると共に職員の共通認識を高めました。

- ・課長会議 12回
- ・管理職会議 1回
- ・主幹会議 12回(各課・事務所・事業所へ伝達)

2. 自発性・開発性・柔軟性のある事業活動を構想、実践できる組織を目指し ます<総務課・地域福祉課・相談支援課・在宅福祉課>

- ・地域福祉推進に不可欠な行政とのパートナーシップ向上を図りました。
- ・介護予防教室を実施しました。

3. 経営管理の見直し<総務課>

(事業管理や財務管理、人事管理、所轄庁などへの法務業務など)

経営管理について、組織課題の分析を行い、適正な事業・財政・人事管理ができる組織運営を図り、育成・評価・処遇を一体化した人事考課制度の定着に努めました。

(1) 事業管理や財務管理、人事管理、所轄庁などへの法務業務など、社協の財政規律と財政再建を行うため、各検討委員会の答申に基づき短期的な改革と中長期的な財政健全化のロードマップを作成し、具現化に向けて検討を行いました。

- ①人事・給与制度の見直し
- ②障がい者デイサービス事業の終了
- ③障がい福祉センター水車野園指定管理事業の終了

(2) 人事考課制度の導入

職員一人ひとりが基本理念・基本目標の達成に向け、職員のプロジェクト会議で設定した8つの職員像を目指して人材育成を行いました。また、制度導入に伴い、考課者および被考課者研修を実施し、考課者と被考課者が目標管理に向けてコミュニケーションが図れるよう体制を整えました。また人事・給与制度を見直し職員の意欲を引き出すとともに、多様で優秀な人材確保に向け取り組みを進めました。

◎8項目の目指すべき職員像

1. 地域や住民との関わりを持ち、信頼関係を築く人。
2. 様々な事柄に興味関心を持ち、情報の収集や活用を多彩に行う人。
3. 基本理念に基づいて、自ら考え、果敢に挑戦し、責任を持って行動する人。
4. 社会や組織の一員としての自覚を持ち、周囲と協力しながら努力を惜しまず成果を追い求める人。
5. プロフェッショナル意識を持ち、広い視野と深い見識の習得に意欲的な人。
6. 相手の立場に立ち、認め、可能性を信じて誠実に接していく人。
7. 自己管理を怠らず、自らを律し、相手のアドバイスを真摯に受け容れ実践する人。
8. チームワークを重んじ、周囲を巻き込みながらリーダーシップを発揮する人。

◎人事考課	考課者研修	令和元年6月11日(火) 13:30～
	被考課者研修	令和元年6月11日(火) 18:30～

4. 職場体制を整備します<総務課>

(1) 職責別研修体系の確立に向け、資質向上のための必要な研修を計画し積極的に参加しました。

①内部研修

◎役職や業務ごとの階層別研修(キャリアパス研修)

◎専門分野ごとの研修

②外部研修

◎全国レベル、県・県社協で実施される研修への積極的参加

③自己啓発研修への参加促進

(2) 災害発生時の職場内の体制を確立するため職員によるプロジェクト会議を設置し、災害が発生した際の対応の手引き(事業継続計画:BCP)の職員への周知や詳細の検討を行いました。

◎プロジェクト会議 8回開催

◎大規模災害に備えた職員研修会 令和元年9月2日(月) 18:30～
参加者110人

(3) よりよい職場環境づくりの推進

すべての職員が、仕事と子育てや介護を両立し、生き生きと働きがいをもって

継続勤務できることを目指す新たな5ヵ年を期間とした一般事業主行動計画により、仕事と生活の調和(ワークライフバランス)を支援するため、雇用環境の充実に図りました。

◎ストレスチェックの実施

職員のストレスの程度を把握し、職員自身のストレスの気づきを促すとともに、職場改善につなげ、働きやすい職場づくりを進めました。

◎特定職員に超過勤務が集中しないよう業務の分散化と業務分担の見直し

◎働き方改革に伴う時間外勤務の管理および年次有給休暇5日間の完全取得

◎安全衛生委員会の開催

◎健診の要再検査の者への二次検査促し

◎職員の健康管理のひとつの手段として「ノー残業デー」を徹底

◎職員の夏季特別休暇の完全取得および年次有給休暇の取得の推進

◎無期雇用契約の仕組みの運営

◎同一労働同一賃金における非常勤職員への夏季特別休暇の付与および健診の補助に向けた準備

◎ハラスメントに関する職員研修

働きやすい職場環境づくり「アサーションについて」

令和2年2月18日(木) 18:30～

5. 住民の暮らしを丸ごと支える包括的な相談支援を目指します<相談支援課>

複合的かつ多様な課題を抱える相談者を丸ごと受け止め、寄り添った支援ができるよう、住民の持つ力と専門職(事業所等)が協働で、支援の狭間を作らない相談体制づくりを目指しました。

①4課合同のケース会議の定期的ではなく、それぞれが対応した相談に対し、臨機応変に関係職員と相談支援課職員がケース会議を行い、相談者に必要な支援や地域の社会資源の活用を意識した支援方針の検討を行いました。

②民生委員・児童委員や地域住民とのつながりを作り、日常的な見守りが行えるよう取り組みました。

6. 地域福祉推進の一環としての社協らしい在宅福祉サービスを目指します<在宅福祉課>

収支状況悪化への対応、今後、必要とされるサービスを見極め、持続可能な事業運営を目指しました。

【取り組み】

- ・「介護事業あり方検討委員会」を設置し、今後のサービス内容や事業運営について検討し、令和2年度から具体的に取り組むための3年間のロードマップを作成しました。

【評価】

- ・介護事業あり方検討を通して、法人全体の課題の見直しにもつながりました。
- ・通所介護事業所を拠点とし、エリアごとに地域福祉課の地区担当者と介護職員が一緒に話し合ったことで、お互いが気づいていない地区の様子を知ることができました。
- ・3年間のロードマップは、事業所ごとに目指す方向だけでなく、体制や財政等の見える化をはかることができました。



7. 市内 14 の各地区に合わせた、支えあえる地域づくりを目指します

＜地域福祉課＞

市内 14 各地区に地区担当ワーカーを配置し、それぞれの地区における課題や地域資源、地域性などの地域分析のもと、地域住民や専門職、各種団体や企業などと協働し、地域づくりをすすめました。

8. 地域課題に対して、多職種・他機関が協働して解決を図るためのネットワークを構築します＜地域福祉課＞

さまざまな地域課題に対して、市域・地区域・小地域それぞれのエリアに応じて、あらゆる分野の職種・機関がそれぞれの強みを活かし解決を図るよう、協働して取り組むネットワークの構築をすすめました。本年は生活支援体制整備事業で地区域に位置付けられる第 2 層協議体設置について、未設置の地区へ重点的に第一層コーディネーターと地域担当ワーカーが関わり、立ち上げを支援しました。

9. 「地域福祉活動計画」の進捗確認を行い、目標達成に向けて検証を行います＜地域福祉課＞

策定委員をはじめとする様々な立場の方とともに、実践の進捗確認や、課題整理をする場を開催予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から、開催を中止しましたが、地域福祉課の職員で、これまでの地区への働きかけや地域の変化を振り返り、進捗確認を行いました。

10. 施設運営・管理＜総務課＞

市施設（指定管理）・市社協所有施設を運営する上で、広く市民からのニーズに応え、安全安心に利用していただけるよう環境整備を行い、地域に開かれた施設として適切な運営管理を行いました。

(1) 市施設の指定管理・運営（2施設）

◎東近江市福祉センターハートピア

【貸館業務】

総合的な福祉センターとして幅広い層の利用があり、貸館での来館をきっかけとした相談・支援なども行いました。

・年間貸館利用者数 963件 延べ13,239名

【維持管理業務】

来館者の安全確保を最優先に、清掃や施設・設備点検等の日常巡視点検、保守管理および簡易修繕を行い、施設の健全なる保全を図りました。

【自主事業】

小地域福祉活動、相談支援事業、地域福祉権利擁護事業、ボランティアセンター事業、子育て支援事業、福祉図書・福祉関係ビデオの貸出、福祉共育事業、訪問介護事業、通所介護事業

◎能登川障害福祉センター水車野園

【維持管理業務】

来館者の安全確保を最優先に、清掃や施設・設備点検等の日常巡視点検、保守管理および簡易修繕を行い、施設の健全なる保全を図りました。

【受託事業】

- ・地域生活支援事業 障がい者デイサービス事業
事業実施日数 284日 延べ1,343名
- ・利用者との地域の交流 水車カフェ
- ・障がいの当事者団体への支援および連携
- ・障がいの当事者団体への施設の開放
- ・ボランティア育成、支援および連携

(2) 市社協施設の維持管理・運営（5施設）

◎ゆうあいの家

◎せせらぎ

◎ちやがゆの郷

◎かじやの里の新兵衛さん

◎デイサービスセンターあさひの

11. 地域における公益的な取り組み

＜総務課・地域福祉課・相談支援課・在宅福祉課＞

地域共生社会の実現に向けて、社会福祉法人の専門性や資源などを活かし、地域課題や地域のニーズに対応する社会貢献活動の推進と他社会福祉法人の社会貢献活動の推進支援を行いました。

(1) 東近江市社協の地域貢献活動

- 生活困窮者支援
- 新しい総合事業による介護予防プログラム

(2) 他社会福祉法人の地域貢献活動の支援

- 社会貢献活動の相談対応・情報提供・マッチング